

平成26年度

第15回大分県教育委員会 会議録

日 時 平成26年11月4日 (火)
開会14時15分 閉会15時06分

場 所 教育委員室

平成 2 6 年度
第 1 5 回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 議 案

第 1 号議案 平成 2 7 年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針等
について

(2) 報 告

①第 6 9 回国民体育大会の成績について

(3) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	委員長	松 田 順 子
	委員長職務代理者	林 浩 昭
	委員	岩 崎 哲 朗
	委員	首 藤 照 美
	委員	高 橋 幹 雄
	教育長	野 中 信 孝

欠席委員なし

事務局	理事兼教育次長	河 野 盛 次
	教育次長	落 合 弘
	教育次長	大 城 久 武
	教育改革・企画課長	佐 野 壽 則
	教育人事課長	藤 本 哲 弘
	教育財務課長	岡 田 雄
	福利課福利厚生監	木 村 哲 雄
	義務教育課管理予算班主幹（総括）	臼 木 雅 彦
	生徒指導推進室長	江 藤 義
	特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	高校教育課長	高 畑 一 郎
	社会教育課長	曾根崎 靖
	人権・同和教育課長	甲 斐 順 治
	文化課長	山 口 博 文
	体育保健課安全対策・管理監	阿 部 辰 也
	教育改革・企画課主幹	勝 尾 裕 美
	教育改革・企画課主査	石 丸 一 輝

2 傍聴人

4 名

開会・点呼

(松田委員長)

それでは、委員の出席確認をいたします。
本日は、全委員が出席です。

ただいまから平成26年度 第15回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

(松田委員長)

本日の会議録の署名委員でございますが、高橋委員にお願いしたいと思っております。

会期の決定

(松田委員長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりであります。
会議の終了は15時00分を予定しております。
よろしく申し上げます。

議 事

(松田委員長)

それでは、議案の審議に移ります。
本日の議案は1件です。

【議 案】

第1号議案 平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針等について

(松田委員長)

それでは、第1号議案「平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針等について」提案を求めます。

(野中教育長)

第1号議案「平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針等について」ご説明いたします。

これは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第38条第2項第1号の「県費負担教職員の標準的な在職期間その他の都道府県委員会が定める県費負担教職員の任用に関する基準」として、「平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針」及び「平成27年度大分県公立小・中学校教職員定期人事異動実施要綱」を定めるものです。

内容としては、平成27年4月の市町村立小・中学校及び県立学校教職員の定期人事異動に当たり、教職員人事に関する県教育委員会としての基本的な考え方を示し、校長・教頭等への登用や一般教職員の人事異動の方針などを定めるものです。

県教育委員会としてましては、平成20年の不祥事を受けて、試験制度の見直しなど、様々な教育行政の改善策を着実に実施してまいりました。これまでも申し上げてまいりましたように、これらの改革は、それ自体が目的ではなく、この改革を通じて、学校における教育の質の向上を図るためのものでした。

昨今、教育行政を取り巻く社会情勢は、少子高齢化による人口減少社会を迎えていることに加え、急速に変化・多様化しており、これからの教育改革・学校改革は、これらの変化を敏感に感じながら進めていかななくてはなりません。

その点を踏まえ、本定期人事異動方針等は、適材適所の人事配置を一層進め、教職員をプロとして人材育成し、その力を最大限に発揮させ、教育力を底上げしていくことを主眼としておりますので、ご審議の程よろしく願いいたします。

(藤本教育人事課長)

第1号議案「平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針等について」ご説明いたします。

資料2ページをご覧ください。まず、人事異動方針等の変遷について、ご説明いたします。平成20年の事件を受けて、同年8月29日に調査結果報告書がとりまとめられ、その中に、教職員人事管理の見直しとして、教職員人事計画の見直しと広域人事の推進、教職員人事評価システムの確立、人事管理電算システムの導入等が挙げられています。これらを平成21年度以降の人事異動方針、人事施策の中で実施してきました。

平成21年度は人事異動方針を全面改定いたしました。特に、教職員

人事に関する情報管理の徹底と職員団体や教育団体等外部からの要請の排除を基本方針の中に盛り込みました。また、それまでは、地域間異動については、47歳以上の地域間異動の適用除外、人事異動は40kmかつ1時間程度にとどめるというような留意事項がありましたが、その見直しを実施しました。併せて、市町村間で大きく偏りのあった臨時講師比率の是正のため、広域人事を一層推進することとしました。

平成22年度には、小・中学校において、学校支援センターが設置され、人事異動方針にも、全県的視野に立った広域人事の一層の推進を盛り込んだところです。

大きく人事異動方針の考え方を変えたのが、平成23年度です。それまでは、毎年度、人事異動方針として、翌年度の人事異動の基本的な考え方を示していました。また、人事異動方針とは別に、教職員人事計画というものがありませんでした。教職員人事計画は、昭和40年に策定され、市町村合併による人事地域、市町村の見直し等があった以外は、基本的な考え方は変わらずに受け継がれていましたが、平成23年度人事異動方針策定の際に、教職員人事計画を廃止し、人事異動方針に基づく教職員人事異動実施要綱を新設しました。

また、平成22年10月から教職員評価システムを本格実施し、その結果を人事異動に全面的に活用することとしました。

さらに、同一校の在職年数を、基本的に6年としていたところを、原則として、3年から6年、適材適所の観点から、3年未満でも異動することがあるとしたところです。教職員が切磋琢磨する環境の醸成として、人材の育成と活用、校長のリーダーシップの確保、教職員の意識改革を図るため、年数による人事、希望による人事を廃止し、適材適所の人事を23年度以降進めています。

24年度の人事異動方針では、人事異動を通じた人材の育成というものを盛り込みました。また、勤務拠点という考え方を廃止し、全県的な教育水準の向上という観点から、出身地等によらず、全県的な範囲での異動を打ち出しました。特に、若年期、新採用から概ね10年以内の教職員には、3つ以上の人事地域を経験してもらう、10年3地域という考え方を明示したところです。

25年度におきましては、24年11月に策定された芯の通った学校組織推進プランを踏まえ、教育改革・学校改革を推進できるような人事異動の推進を異動方針の中に盛り込みました。

また、26年度につきましては、県全体の学校力の向上のため、若年期、新採用から概ね10年以内の教職員を中心とした広域人事の一層推進と併せて、管理職選考を資格試験化し、常に意識をもった人材を確保していくことといたしました。

今年度につきましては、後ほど述べますが、適正な校内人事について、人事異動方針に記載するとともに、人事地域への在外教育施設の追加や

指導力優れる教職員の再雇用配置促進を行いたいと考えています。

次に、県立学校の人事異動方針等の変遷概要について、ご説明いたします。県立学校においても、小・中学校の教職員人事計画に相当するものとして、県立学校人事異動要領及び特別支援学校人事異動要領というものがありましたが、これらも平成23年度に廃止し、人事異動方針に基づく人事異動実施要綱を策定しています。23年度の人事異動方針以降、基本的には、小・中学校と同様な考え方で、同一校在職年数を7年としていたものを、3年以上は異動の対象とし、適材適所の人事を進めるという形で現在に至っております。

24年では、行政区を市町村単位に変更し、25年度では、教職員人事異動公募制度を導入、26年度では、この公募制度を拡大しています。今年度は、小・中学校と同様、適正な校内人事の推進と指導力優れる教職員の再雇用配置促進というものを異動方針の中で記述しています。

次に、平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針案について、ご説明いたします。資料7ページをご覧ください。「第1 基本方針」、「第2 人事異動」、「第3 副校長、主幹教諭、指導教諭の配置」、「第4 退職」の4つから構成されており、この構成に変更はありません。

「第1 基本方針」の中では、少子高齢化による人口減少社会において、どのようにして学校改革を進めていくのか、その考え方を記載しています。

基本的な考え方は7つありますが、1点目につきまして、平成24年11月に策定した「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』推進プラン」が今年度、最終年度を迎えることから、現在作成中の次期計画を踏まえて、適正な校内人事を含む教職員人事を通じた教育改革・学校改革を進めると変更しました。適正な校内人事については、原則として学級担任には正規職員を配置すること、これは校内人事として、校長が責任を持って行うということ、これから年度末に向けて徹底していきたいと考えています。

「第2 人事異動」では、校長及び教頭等への任用等にあたっては、「求める管理職像」を踏まえて行うこととし、採用資格保有者選考試験の募集要項に記述しているものを、ここに記載しています。また、配置にあたっては、優れた識見と教育改革・学校改革に対する確かな理念を有していること、指導力に富みマネジメント能力に秀でていること、具体的な学校経営ビジョンを有していること等を採用資格保有者選考試験の選考基準としていますので、これを再度、人事異動方針の中でも明示しました。「3 転任等」では、教育のプロとして人材育成を図るため、キャリア形成を意識し、採用から早い時期に異なる環境、多様な経験を積ませると変更しました。

「第4 退職」については、若手教職員の人材育成の観点から、指導

力に優れる教職員の再雇用配置の促進を追加しました。

次に、小・中学校教職員定期人事異動実施要綱案について、ご説明いたします。資料11ページをご覧ください。基本的な考え方は、昨年度と変わりありません。

今年度の変更点は、「(2) 人事地域」に、Fとして在外教育施設を追加したこと、「(4) 一般教職員人事」に、原則として校内人事における学級担任は、正規職員を配置するというを追加したところです。今年度、学級担任をしている臨時講師が小学校364名、中学校153名、計517名おり、その反面、学級担任をしていない正規教員が小学校525名、中学校695名、計1220名います。正規教員の中には、学力向上支援教員や教務主任等で担任をしない教員もいますが、校内人事をする中で、安易に臨時講師に担任を任せているのではないかと、そこをもう一度改めて意識した上で、それぞれの学校で校内人事を行っていただくために、文言の追加を行いました。ちなみに、県立高校では、臨時講師が担任をしているケースはゼロ、特別支援学校では若干名います。こういったことを市町村教育委員会に説明し、適正な校内人事を行っていただきたい旨を示していきたいと考えております。

参考でございますが、県立学校の人事異動実施要綱の内容については、昨年度と同様です。

以上でございます。ご審議の程よろしく願いいたします。

(松田委員長)

ただ今、提案のありました議案について、審議を行います。質疑・意見等のある方はお願いします。

(首藤委員)

10年3地域というのは、今、どれくらいの達成率ですか。

(藤本教育人事課長)

積極的に進めていますので、達成率としてはかなり高くなっています。

(林職務代理者)

小・中学校教職員定期人事異動実施要綱(4)⑤について、学級担任は正規職員を配置するということですが、8月の新採用教員との意見交換の際にも話があったように、新採用の方は、どちらかという、担任よりも研修という考え方もあると思います。学級担任に正規職員を配置する際には、ベテラン教員と新採用教員は区別して考えるのでしょうか。

(藤本教育人事課長)

小規模校におきましては、先生の人数に余裕のある配置は難しい状況

ですので、新採用教員とは言え、正規職員を担任から外して研修に、というのは難しい面があると思います。

(林職務代理者)

いろいろ難しいところがあるのではないかと思います、よく話し合っ
て、この方針を伝えていただきたいと思います。

(松田委員長)

先ほど、教育実践者表彰式での意見交換会で、新採用の先生が来たら、
先輩の先生が積極的にいろいろな悩みを解決しているという意見があり
ました。是非、教職員等で連携してほしいと思います。

(河野理事兼教育次長)

全体としては、新採用職員を指導するための人を配置していますので、
新採用の先生でも学級担任をしてもらいます。初任者研修等で校外へ出
る場合には、非常勤職員を代替で配置するようにしていますので、1年
目から学級担任をしてもらうことを前提に、採用をしているということ
です。

臨時講師が学級担任をすることを前提に配置している例もありますが、
それはおかしいのではないのでしょうか。そこを、学級担任への配置
は正規職員を前提にやってくださいということは今後進めていきたいと
考えています。

(松田委員長)

正規教員で担任をしていない人が525名、中学校で695名いると
いう話がありました。正規職員は、もっと積極的に学級担任をしないと
いけないと思います

(岩崎委員)

今回の人事異動方針、定期人事異動実施要綱については、私たちの方
向性を明文化したものですし、内容は積極的に評価すべきものと考えま
す。問題は、市町村教育委員会に同じような認識を持っていただいでい
るのかどうかという点です。また、地域の方々に、こういった方針、要
綱の趣旨について、ご理解をいただいているのかどうかという点です。
これらについては、まだ不十分な面があるのではないかと思います、
その現状をどのように考えていますか。

(藤本教育人事課長)

人事異動方針につきましては、その趣旨や4月の定期人事異動に向け
てのお願いを市町村教育長会議の中で毎年、説明しています。

また、11月と1月に行う教職員人事主管課長会議においても、人事異動方針の趣旨を徹底していきたいと思います。地域や保護者の方々に対しては、そこまでできていないと思います。

(岩崎委員)

そういった会議で、何か異論等が出ることはないのでしょうか。これまで、県教育委員会が策定した人事異動方針や定期人事異動実施要綱に対して、積極的な評価をいただけているのでしょうか。

(藤本教育人事課長)

平成23年度に大きく見直したときには、市町村教育委員会からの意見等を伺ったこともありましたが、その後は、事前に意見を伺うということはありません。市町村教育委員会の意見は、会議の中でしっかり聞いた上で、具体的な人事異動の中で反映させていくことにしています。

(野中教育長)

広域人事については、(市町村)教育長会議において、是非やってほしいという強い意思表示がありました。

(岩崎委員)

現実問題として、広域人事異動をやらないと、人事が回らないという実態があると思いますので、学校現場の先生方にご理解いただかないといけないと思います。ただ、それが管理職の理解までに止まっているように感じますが、いかがでしょうか。

(河野理事兼教育次長)

平成23年から2年かけて、人事異動方針を大きく見直しました。それが、全体としては、かなり浸透してきたと感じています。ただ、現実として、市町村ごとの差はあります。広域人事という観点から見れば、広域人事をしない場合、地域の教育そのものが非常に危ないため、広域人事に対して、非常に積極的な考え方をする周辺部の市町村と、人材が豊富にある大分市を中心とした市町村では、捉え方は違います。平成23年、24年で、2つ大きな変更を行いました。1つは、年数による人事ではなく、1年でも異動する、つまり適材適所の観点から人事異動を行うという考え方、もう1つが、勤務拠点の廃止です。勤務拠点というのは、教職員自らが、自分がどの市町村で勤務できるかを選択できる制度でした。この2つの制度の廃止は、現場の教職員にとっては、かなり大きな変更です。それを十分に我々が伝えるのか、若しくは、各市町村教育委員会が、その意図を踏まえて各現場に伝えるかについては、まだまだ工夫がいると思いますので、今後も粘り強く意識改革を徹底してい

かなければならないと考えています。いずれにしても、かなり定着はしてきていると思います。

(高橋委員)

県の職員で考えると、県の職員は、県内どこにでも異動があるわけです。会社であれば、社長から命令が出て、そこに異動するというのは当たり前の話だと思います。

適正配置の問題については、まずは、教科が大前提だと思いますが、部活動等も考慮に入れた人事異動も考えていただきたいと思います。

(松田委員長)

広域人事によって、いろいろな地域を経験することも大事だと思いますが、学校規模の経験も大事だと思いますので、そこも考えていただきたいと思います。

(松田委員長)

他に、ご意見等はございませんか。

(松田委員長)

それでは、ただ今、提案のありました第1号議案の承認について、お諮りいたします。第1号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(松田委員長)

第1号議案については、提案どおり承認します。

【報 告】

①第69回国民体育大会の成績について

(松田委員長)

それでは、報告第1号「第69回国民体育大会の成績について」報告をしてください。

(阿部体育保健課安全対策・管理監)

10月22日に閉幕しました第69回国民体育大会の成績について、

ご報告申し上げます。資料の1ページをお開きください。

最終成績につきましては、「1. 大分県の総合成績」に記載してありますとおり、男女総合成績である天皇杯につきましては、得点が896点、順位は第28位で、前年より6位順位を落とす結果となりました。また、女子総合成績であります皇后杯につきましては、得点が445点、順位は第36位で、前年から16位順位を落としています。

「2. 都道府県総合成績」をご覧ください。目標は10位台でしたので、第19位の宮崎県の得点をご覧くださいますと、1001点です。本県の得点は896点ですので、10位台に105点及ばなかったということになります。

「3. 九州各県総合成績比較」をご覧ください。本県は九州第6位の成績でした。昨年は九州第3位でしたが、多人数競技において複数競技で上位入賞し、大量得点を獲得した宮崎県と鹿児島県、九州ブロック大会代表権獲得数第2位の熊本県などが、本県より上位に位置したことにより、本県は順位を下げています。

2ページをご覧ください。優勝競技と種目を掲載しています。まず、フェンシング競技ですが、合計88点を獲得し、3年ぶりの競技別総合優勝を達成しました。次に、種目ごとの優勝については、団体では、先ほど説明いたしましたフェンシング競技で成年男子フルーレ種目、成年女子エペ種目、ボート競技で少年女子ダブルスカル種目において優勝しております。個人では、水泳競技少年男子A200m平泳ぎで佐伯鶴城高校3年の渡辺一平選手、ボクシング競技成年男子ライト級で日本大学3年の木本盛宝選手、ウエイトリフティング競技少年男子プラス105kg級スナッチ種目とクリーン・アンド・ジャーク種目の2種目で大分工業高校3年の野中雅浩選手、自転車競技ケイリン種目で日出暘谷高校3年の阿部将大選手、レスリング競技成年男子フリースタイル97kg級で陸上自衛隊別府駐屯地の坂本憲蔵選手がそれぞれ優勝しています。水泳競技の渡辺選手はユースオリンピックで金メダルを獲得するなど、国際大会での活躍を期待されている選手ですが、今回の国体におきましても、200m平泳ぎでの優勝のほか、100m自由形でも準優勝し、一人で15点獲得する活躍を見せてくれました。また、ボクシング競技の木本選手は国体2連覇、本県代表団の旗手を務めたウエイトリフティング競技の野中選手は2種目完全優勝、自転車競技の阿部選手は全国選抜、インターハイ優勝を含め三冠達成を成し遂げております。なお、レスリング競技の坂本選手につきましては、台風による日程変更の関係で、準々決勝進出者が1位タイの扱いとなったものです。

次に3ページから4ページにかけては、入賞一覧を掲載しています。入賞数は21競技で66種目でした。5ページ以降につきましては、本大会に出場したすべての競技・種別の成績を記載しています。

今回の国体では、九州ブロック大会において有望種目が代表権を獲得

できなかったこと、多人数競技や少年の部の得点が減少したこと、本県が得意としている競技の敗戦などが課題としてあげられます。一方で、優勝数が前年を4つ上回ったことや、入賞競技数は過去5年間の平均値と変わらない状況であることなどは、次につながる成果と考えております。まずは、今回の結果を真摯に受け止め、結果を詳細に分析し、来年の第70回国体に向けて競技力向上対策を推進していきたいと考えています。

最後になりますが、松田委員長をはじめ、教育委員の皆様方には、お忙しい中、長崎まで足を運んでいただきまして、ありがとうございました。

以上でございます。

(松田委員長)

ただいまの説明について、何かご質問がありますか。

(松田委員長)

お疲れ様でした。

(松田委員長)

その他、何かございませんか。

【その他】

①大分県学生寮同窓会からの要望について

(岩崎委員)

大分県学生寮同窓会というところから、「新大分県学生寮設立についてお願い」という文書が出ているとお聞きしました。実際に、そういう要望があったのか、また、その内容について、具体的にどのような内容で、今どういった状況にあるのかについて、報告をお願いしたいと思います。

(岡田教育財務課長)

大分県学生寮については、戦後、昭和23年に設置され、47年に廃寮となっています。廃寮に至った経緯につきましては、入寮生の選考問題等で寮の自治会と運営側の対立があり、また、当時は学生運動が盛んな時期だったことなどもあり、正常化が見込めなくなったことから、昭和47年に廃寮となりました。その20数年間でOBの方々は約900名いらっしゃいまして、現在でも寮のOB会等の活動をされています。

そのOB会の皆様方から、学生寮の再興についてのお話をいただいています。学生への経済的な支援として、また、企業に入って求められるコミュニケーション能力の育成に学生寮が非常に役に立ったということで、そういう面でも積極的に関わっていききたいというお気持ちを伺っています。

一方で、学生の気質や少子化、また、当時から見ると東京の住宅事情も良くなっていることなど、設立にあたっては課題もあります。

現在、学生寮同窓会の皆様と意見交換会を持たせていただいております、今後も継続して行っていきたいと考えています。

(岩崎委員)

他の県がどういった状況にあるのかも踏まえて、考えていただきたいと思います。

(松田委員長)

最後にこの際、何かありましたら、お願いします。

ないようですので、これで平成26年度第15回教育委員会会議を閉会します。

お疲れ様でした。

平成26年度第15回大分県教育委員会会議次第

日時 平成26年11月4日(火)

14:15~15:20

場所 教育委員室

1 開 会

2 署名委員の指名

3 議 題

(1) 議 案

第1号議案 平成27年度公立学校教職員定期人事異動方針等について

(2) 報 告

①第69回国民体育大会の成績について

(3) その他

4 閉 会

第一号議案

平成二十七年大分県公立学校教職員定期人事異動方針等について

平成二十七年大分県公立学校教職員定期人事異動方針及び平成二十七年大分県公立小・中学校教職員定期人事異動実施要綱を別紙のとおり決定する。

平成二十六年十一月四日提出

大分県教育委員会教育長 野中 信孝

提案理由

平成二十七年の公立学校教職員定期人事異動にあたり、その方針及び実施要綱を定めたいので提案する。

平成21年度以降の人事異動方針等の変遷概要（市町村立学校）

（人事異動方針等）

（平成20年度不祥事）

〔調査結果報告書（20年8月29日）〕
 教職員人事管理の見直し
 (1) 教職員の広域人事の推進（教職員人事計画の見直し）
 (2) 教職員人事評価システムの確立
 (3) 人事管理電算システムの導入

平成21年度人事異動方針等

- ◎人事異動方針の全面改定（教職員人事に関する情報管理徹底、職員団体や教育団体等外部からの要請排除等）
- ◎人事異動実施に係る留意事項見直し
 （47歳以上の地域間異動適用除外、人事地域間異動40kmかつ1時間程度の見直し）
- 臨時講師比率是正のため、広域人事を一層推進

平成22年度人事異動方針等

- 市町村立学校学校支援センターの設置
- 全県的視野に立った広域人事を一層推進

平成23年度人事異動方針等

- ◎教職員人事計画を廃止し、人事異動方針に基づく、教職員人事異動実施要綱を新設
- ◎教職員評価システムによる人事評価結果の全面活用
- ◎異動年数（同一校在職年数）の考え方
 原則として6年 → 原則として3年～6年
 ※適材適所の観点から3年未満でも可

教職員が切磋琢磨する環境の醸成

- ①人材の育成と活用
- ②校長のリーダーシップの確保
- ③教職員の意識改革

平成24年度人事異動方針等

- ◎人材育成方針を踏まえ、人事異動を通じた人材育成
- ◎勤務拠点の廃止
- 人事地域の見直し（離島、二豊学園）
- ◎若年期（新採用からおおむね10年以内）に3つ以上の人事地域経験

平成25年度人事異動方針等

- 組織的課題解決力向上検討会議提言、芯の通った学校組織推進プランを踏まえ、教育改革・学校改革を推進

平成26年度人事異動方針等

- ◎県全体の学校力の向上等のために、若年期（新採用からおおむね10年以内）を中心に広域人事を一層推進
- ◎管理職選考の資格試験化

平成27年度人事異動方針等（案）

- 適正な校内人事の推進（学級担任の正規職員配置や主任配置等）
- 人事地域の見直し（在外教育施設）
- 指導力優れる教職員の再雇用配置促進

教職員人事計画
 人事異動方針
 人事異動実施要綱

平成21年度以降の人事異動方針等の変遷概要（県立学校）

（平成20年度不祥事）

〔調査結果報告書（20年8月29日）〕
 教職員人事管理の見直し
 （1）教職員の広域人事の推進
 （2）教職員人事評価システムの確立
 （3）人事管理電算システムの導入

平成21年度人事異動方針等

- ◎人事異動方針の全面改定（教職員人事に関する情報管理徹底、職員団体や教育団体等外部からの要請排除等）
- ◎全県的視野に立った適正な人事

平成22年度人事異動方針等

- 本県初の3部制（定時制）課程及び通信制課程を持つ爽風館高等学校の教育活動の円滑化
- 統合される別府地区特別支援学校の教育活動の円滑化

平成23年度人事異動方針等

- ◎教職員定期人事異動要領を廃止し、人事異動方針に基づく、教職員人事異動実施要綱を新設
- ◎教職員評価システムによる人事評価結果の全面活用
- ◎知事部局等との人事交流促進
- ◎異動年数（同一校在職年数）原則として7年 → 3～6年

平成24年度人事異動方針等

- ◎人材育成方針を踏まえ、人事異動を通じた人材育成
- 行政区を市町村単位に変更

平成25年度人事異動方針等

- 組織的課題解決力向上検討会議提言、芯の通った学校組織推進プランを踏まえ、教育改革・学校改革を推進
- 学校教育目標の達成と学校活性化を図るため、教職員人事異動公募制度を導入

平成26年度人事異動方針等

- 人事異動公募制度の拡大
- ◎管理職選考の資格試験化

平成27年度人事異動方針等（案）

- 適正な校内人事の推進（学級担任の正規職員配置や主任配置等）
- 指導力優れる教職員の再雇用配置促進

（人事異動方針等）

人事異動方針	県立学校人事異動要領	特別支援学校人事異動要領
	人事異動実施要綱	

平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針

平成26年11月4日
大分県教育委員会議決

第1 基本方針

県教育委員会は、平成20年の不祥事を受けて、県民の信頼回復に向けて各種試験制度の抜本的な見直しを始めとする様々な教育行政の改善策をこれまで着実に実施してきた。

これらの改革は、学校における教育の質の向上を図るための基盤整備というべきものであり、全ての教職員自らが、教育本来の目的である、「子どもたちが夢に挑戦し、自己実現を図るための基礎となる力を身につけさせる」ため、常日頃から改革・改善の視点をもち、情熱をもって教育の実践に取り組んでいく必要がある。

今日の教育行政を取り巻く社会情勢は、少子高齢化による人口減少社会が到来していることに併せ、国内外問わず、予想を超えたスピードで変化し多様化が進んでいる。この状況に対処し、打ち勝っていくには、県教育委員会としては、内外の連携・連動を強化しこれまでの改革を一層推進するとともに、各学校、教職員が、社会情勢の変化を敏感に受け止め、自ら謙虚に学び続け、子どもたちに本来の学びを実感させることができるよう、不断の見直しによる教育改革・学校改革を進めていく必要がある。

そのためには、教育行政の根幹ともいうべき教職員人事について、「組織づくり」と「人づくり」を担う人材の育成という使命に基づき、組織力の向上と教職員の資質向上を図る必要がある。組織力の向上については、学校教育目標の明確化、主任制度の徹底など目標達成に向けて組織的に取り組む芯の通った学校組織の更なる定着が求められる。また、教職員の資質向上については、教職員評価システムによる人事評価（以下「人事評価」という。）結果を教職員の人事異動や校内人事に積極的に活用することにより、それぞれの教育課題解決に向けた適材適所の人事配置をより一層推進することが必要である。以上のことを踏まえ、適正かつ体系的な人事管理の確立に向けて、次の事項を基本に行う。

- 1 平成26年12月策定予定の「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』」推進プラン（次期計画）を踏まえ、適正な校内人事を含む教職員人事を通じた教育改革・学校改革を進める。
- 2 平成23年10月策定の大分県公立学校教職員の人材育成方針に沿って、人事異動を通じた人材の育成を図る。
- 3 教職員評価システムの人事評価結果や教職員一人ひとりの能力、適性、意欲等を踏まえ、適材適所の人事配置を推進するとともに、平成21年度以降の人事異動方針等の見直しの趣旨を徹底する。
- 4 県全体の学校力の向上及び教職員の意識改革を図るため、校長や市町村教育委員会の意見を聞きながら、広域人事を一層促進する。
- 5 人事委員会との共同実施による管理職登用選考試験をはじめ、教職員人事作業の各段階において、公正かつ適正な人事事務を執行する。
- 6 教職員の意識改革を図るため、県教育委員会及び市町村教育委員会の事務局をはじめ、知事部局等との人事交流を促進する。
- 7 教職員人事全般（各学校における主任の任命や分掌の決定などを含む）に関して、職務上知り得た情報の管理を徹底するとともに、職員団体や教育関係団体等外部からの不当な要請・依頼等については、その趣旨を問わず、これらを一切受けない。

上記基本方針のもと、平成27年度の定期人事異動については、次の方針により行うものとする。

第2 人事異動

1 校長及び教頭等への登用

- (1) 校長及び教頭等への任用等にあたっては、次に掲げる「求める管理職像」を踏まえて行う。
「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』」推進プランの全体像を十分に理解するとともに、主任制度などの趣旨をふまえ、学校改革に取り組む意欲に富んでいる者
- (2) 任用にあたっては、採用資格保有者名簿の上位の者から行うことを原則とする。ただし、有効期間内の採用資格保有者名簿の上位の者であり、かつ人事評価等が別に定める水準以上の者から優先して行うことを原則とする。
また、行政等からの任用にあたっては、別に定めるところにより校長及び教頭等として任用される資格を有する者の中から行う。
- (3) 配置にあたっては、人事評価結果や「求める管理職像」等を踏まえながら、次の事項に留意し、適任の者を配置する。
 - ・校長にあたっては、優れた識見と教育改革・学校改革に対する確かな理念を有していること、指導力に富みマネジメント能力に秀でていること、具体的な学校経営ビジョン

- を有していること等
 - ・教頭にあつては、豊かな知識・経験と教育改革・学校改革に対する確かな理念を有していること、実践力・指導力に富みマネジメント能力を有していること、校長の示す学校経営ビジョンを実現するために必要な責任感・企画力を有すること等
 - ・事務長・市町村立学校支援センター所長にあつては、優れた識見と教育改革・学校改革に対する確かな理念を有していること、指導力に富みマネジメント能力に秀でていること、学校事務を中心とする学校経営に手腕を有し実績を上げていること等
- (4) 民間人校長の登用にあつては、その経験が学校経営に活かされ、波及効果が現れるように配置するとともに、適切な支援を行う。

2 新採用

- (1) 平成27年度大分県公立学校教員採用予定者名簿に登載された者の中から採用する。
- (2) 学校規模、地域性等を考慮しながら、全県的視野に立った均衡ある配置を行う。
- (3) 特別支援学校教諭（小学部・中学部）採用者は、県立の特別支援学校及び市町村立学校の特別支援学級に配置を行う。

3 転任等

教育のプロとして人材育成を図るため、キャリア形成を意識し、採用から早い時期に異なる環境、多様な経験を積ませる。

- (1) 市町村立学校
- ① 人事評価結果等を踏まえ、次のような課題に留意し、全県的視野に立った広域人事を一層推進する。
 - ・小・中学校間において、専科教員の兼務発令などにより小中連携を強化する人事異動の推進
 - ・年齢、免許等を考慮した教職員構成の適正化
 - ・中学校における教科別教員構成の適正化
 - ・小・中学校における特別支援教育の専門性向上のための教職員の人材確保と適正配置
 - ・へき地学校における教職員の人材確保と適正配置
 - ・臨時講師比率の地域間格差の是正
 - ・教職員の人材育成の観点から、地域間・校種間・職種間の異動など多様な経験が可能となる適正配置
 - ② 学校支援センターについては、人事評価結果等を踏まえ、次のような課題に留意し、全県的視野に立った広域人事を一層推進する。
 - ・学校事務職員の人材育成と活用
 - ・学校支援センターの機能向上のための人員配置
 - ③ 学校事務職員及び養護教諭については、人材育成の観点から、県立学校との人事異動を促進する。
 - ④ 学校事務職員については、係長級在級5年以上の者のうち、勤務成績良好な者を主査から副主幹へ登用する。
- (2) 県立学校
- ① 人事評価結果等を踏まえ、次のような課題に留意し、全県的な視野に立った適正な人事を行う。
 - ・年齢、免許等を考慮した教職員構成の適正化
 - ・教科別教員構成の適正化
 - ・同一校における勤務期間等
 - ② 県全体の学校力・教育力を向上するため、普通科系高等学校と専門学科系高等学校、大規模校と小規模校、全日制高等学校と定時制高等学校の人事異動を、それぞれ推進する。
 - ③ 高等学校と特別支援学校の人事異動を行うことにより、相互の特別支援教育の振興及び教職員の専門性の向上を図る。
 - ④ 学校教育目標の達成と学校活性化を図るため、教職員人事異動公募制度を実施する。
 - ⑤ 学校事務職員及び養護教諭については、人材育成の観点から、市町村立学校との人事異動を促進する。
 - ⑥ 学校事務職員については、係長級在級5年以上の者のうち、勤務成績良好な者を主査から副主幹へ登用する。
- (3) 特別支援学校については、市町村立学校からの異動者は原則として上記（1）の方針に、それ以外の教職員は原則として上記（2）の方針に、それぞれ従う。
- (4) 県立中学校については、市町村立学校からの異動者は原則として上記（1）の方針に、県立学校からの異動者は原則として上記（2）の方針に、それぞれ従う。

第3 副校長、主幹教諭、指導教諭の配置

校長がその指導力を発揮するとともに、組織運営体制、指導体制の充実や学校組織の活性化を図るため、引き続き必要と認める学校に副校長、主幹教諭、指導教諭を配置する。

なお、主幹教諭の任用にあたっては、別に定めるところにより、教頭採用資格保有者名簿の登載者の中から、名簿の有効期間中に限り、教頭に任用されない者を、主幹教諭として任用することができるものとする。

第4 退職

1 希望退職者の募集等

別に定めるところにより行う。

2 再雇用制度

再雇用希望者については、長年の勤務内容を考慮し、適材適所の観点から、教職員定数の範囲内で再任用又は非常勤職員として配置する。

また、若手教職員の人材育成の観点から、指導力に優れる教職員の再雇用配置を促進していく。

現 行	平成27年度
<p>平成26年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針</p> <p>平成25年11月8日 大分県教育委員会</p> <p>第1 基本方針</p> <p>県教育委員会は、平成20年の不祥事を受けて、県民の信頼回復に向けて各種試験制度の抜本的な見直しを始めとする様々な教育行政の改善策をこれまでに実施してきた。</p> <p>これらの改革は、学校における教育の質の向上を図るための基盤整備というべきものであり、全ての教職員自らが、教育本来の目的である、「子どもたちが夢に挑戦し、自己実現を図るための基礎となる力を身につけさせる」ため、常日頃から改革・改善の視点をもち、情熱をもって教育の実践に取り組んでいく必要がある。</p> <p>さらに教育行政を取り巻く社会情勢は、国内外問わず、予想を超えたスピードで変化し多様化が進んでおり、県教育委員会としては、これまでの改革を一層推進するとともに、各学校が社会情勢の変化を敏感に受け止め、子どもたちのために十分な対応ができるよう、不断の見直しによる教育改革を進めていく必要がある。</p> <p>そのためには、教育行政の根幹ともいべき教職員人事について、「組織づくり」と「人づくり」を担う人材の育成という使命に基づき、組織力の向上と教職員の資質向上を図る必要がある。組織力の向上については、学校教育目標の明確化、主任制度の徹底など目標達成に向けて組織的に取り組むこと、学校組織の一層の深化が求められる。また、教職員の資質向上については、教職員評価システムによる人事評価（以下「人事評価」という。）結果を教職員の人事異動や校内人事に積極的に活用することにより、それぞれの教育課題解決に向けた適材適所の人事配置をより一層推進することが必要である。以上のことを踏まえ、適正かつ体系的な人事管理の確立に向けて、次の事項を基本に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成24年11月策定の「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』」推進プランを踏まえ、校内人事を含む教職員人事を通じた教育改革・学校改革を進める。 平成23年10月策定の大分県公立学校教職員の人材育成方針に沿って、人事異動を通じた人材の育成を図る。 教職員評価システムの人事評価結果や教職員一人ひとりの能力、適性、意欲等を踏まえ、適材適所の人事配置を推進するとともに、平成21年度以降の人事異動方針等の見直しの趣旨を徹底する。 県全体の学校力の向上及び教職員の意識改革と人材育成を図るため、校長や市町村教育委員会の意見を聞きながら、広域人事を一層促進する。 人事委員会との共同実施による管理職登用選考試験をはじめ、教職員人事作業の各段階において、公正かつ適正な人事事務を執行する。 教職員の意識改革を図るため、県教育委員会及び市町村教育委員会の事務局をはじめ、知事部局等との人事交流を促進する。 教職員人事全般（各学校における主任の任命や分掌の決定などを含む）に関して、職務上知り得た情報の管理を徹底するとともに、職員団体や教育関係団体等外部からの不当な要請・依頼等については、その趣旨を問わず、これらは一切受けない。 <p>上記基本方針のもと、平成26年度の定期人事異動については、次の方針により行うものとする。</p> <p>第2 人事異動</p> <ol style="list-style-type: none"> 校長及び教頭等への登用 <p>(1) 校長及び教頭等への任用は、採用候補者名簿の上位の者から行うことを原則とする。ただし、平成26年4月2日以降の任用にあたっては、有効期間内の採用候補者名簿の上位の者であり、かつ平成25年度以降の人事評価等が別に定める水準以上の者から優先して行うことを原則とする。</p> <p>また、行政等からの任用にあたっては、別に定めるところにより校長及び教頭等として任用される資格を有する者の中から行う。</p> <p>(2) 配置にあたっては、人事評価結果等を踏まえながら、次の事項に留意し、適任の者を配置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長にあっては、教育改革・学校改革への理念、人材育成への取組、学校種毎の経験、各学校毎の課題及び学校規模、各学校の教科別教員構成等 教頭にあっては、教育改革・学校改革への理念、人材育成への取組、学校種毎の経験、各学校毎の課題及び学校規模、各学校の教科別教員構成等 事務長・市町村立学校支援センター所長にあっては、教育改革・学校改革への理念、人材育成への取組、各学校・地域毎の事務運営上の課題 	<p>平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針（案）</p> <p>平成26年11月4日 大分県教育委員会議決</p> <p>第1 基本方針</p> <p>県教育委員会は、平成20年の不祥事を受けて、県民の信頼回復に向けて各種試験制度の抜本的な見直しを始めとする様々な教育行政の改善策をこれまでに実施してきた。</p> <p>これらの改革は、学校における教育の質の向上を図るための基盤整備というべきものであり、全ての教職員自らが、教育本来の目的である、「子どもたちが夢に挑戦し、自己実現を図るための基礎となる力を身につけさせる」ため、常日頃から改革・改善の視点をもち、情熱をもって教育の実践に取り組んでいく必要がある。</p> <p>今日の教育行政を取り巻く社会情勢は、少子高齢化による人口減少社会が到来していることに併せ、国内外問わず、予想を超えたスピードで変化し多様化が進んでいる。この状況に対処し、打ち勝っていくには、県教育委員会として、内外の連携・運動を強化しこれまでの改革を一層推進するとともに、各学校教職員が、社会情勢の変化を敏感に受け止め、自ら謙虚に学び続け、子どもたちに本来の学びを実感させることができるよう、不断の見直しによる教育改革・学校改革を進めていく必要がある。</p> <p>そのためには、教育行政の根幹ともいべき教職員人事について、「組織づくり」と「人づくり」を担う人材の育成という使命に基づき、組織力の向上と教職員の資質向上を図る必要がある。組織力の向上については、学校教育目標の明確化、主任制度の徹底など目標達成に向けて組織的に取り組むこと、学校組織の更なる定着が求められる。また、教職員の資質向上については、教職員評価システムによる人事評価（以下「人事評価」という。）結果を教職員の人事異動や校内人事に積極的に活用することにより、それぞれの教育課題解決に向けた適材適所の人事配置をより一層推進することが必要である。以上のことを踏まえ、適正かつ体系的な人事管理の確立に向けて、次の事項を基本に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成26年12月策定予定の「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』」推進プラン（次期計画）を踏まえ、適正な校内人事を含む教職員人事を通じた教育改革・学校改革を進める。 平成23年10月策定の大分県公立学校教職員の人材育成方針に沿って、人事異動を通じた人材の育成を図る。 教職員評価システムの人事評価結果や教職員一人ひとりの能力、適性、意欲等を踏まえ、適材適所の人事配置を推進するとともに、平成21年度以降の人事異動方針等の見直しの趣旨を徹底する。 県全体の学校力の向上及び教職員の意識改革と人材育成を図るため、校長や市町村教育委員会の意見を聞きながら、広域人事を一層促進する。 人事委員会との共同実施による管理職登用選考試験をはじめ、教職員人事作業の各段階において、公正かつ適正な人事事務を執行する。 教職員の意識改革を図るため、県教育委員会及び市町村教育委員会の事務局をはじめ、知事部局等との人事交流を促進する。 教職員人事全般（各学校における主任の任命や分掌の決定などを含む）に関して、職務上知り得た情報の管理を徹底するとともに、職員団体や教育関係団体等外部からの不当な要請・依頼等については、その趣旨を問わず、これらは一切受けない。 <p>上記基本方針のもと、平成27年度の定期人事異動については、次の方針により行うものとする。</p> <p>第2 人事異動</p> <ol style="list-style-type: none"> 校長及び教頭等への登用 <p>(1) 校長及び教頭等への任用等にあたっては、次に掲げる「求める管理職像」を踏まえて行う。</p> <p>「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』」推進プランの全体像を十分に理解するとともに、主任制度などの趣旨をふまえ、学校改革に取り組む意欲に富んでいる者</p> <p>(2) 校長及び教頭等への任用にあたっては、採用資格保有者名簿の上位の者から行うことを原則とする。ただし、平成26年4月2日以降の任用にあ たすべしは、有効期間内の採用資格保有者名簿の上位の者であり、かつ平成25年度以降の人事評価等が別に定める水準以上の者から優先して行うこ とを原則とする。</p> <p>また、行政等からの任用にあたっては、別に定めるところにより校長及び教頭等として任用される資格を有する者の中から行う。</p> <p>(3) 配置にあたっては、人事評価結果や「求める管理職像」等を踏まえながら、次の事項に留意し、適任の者を配置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長にあっては、優れた識見と教育改革・学校改革に対する確かな理念を有していること、指導力に富みマネジメント能力に秀でていること、具体的な学校経営ビジョンを有していること等 教頭にあっては、豊かな知識・経験と教育改革・学校改革に対する確かな理念を有していること、実践力・指導力に富みマネジメント能力を有していること、校長の示す学校経営ビジョンを実現するために必要な責任感・企画力を有すること等 事務長・市町村立学校支援センター所長にあっては、優れた識見と教育改革・学校改革に対する確かな理念を有していること、指導力に富

<p>題等</p> <p>(3) 民間人校長の登用にあたっては、その経験が学校経営に活かされ、波及効果が現れるように配置するとともに、適切な支援を行う。</p> <p>2 新採用</p> <p>(1) 平成26年度大分県公立学校教員採用予定者名簿に登載された者の中から採用する。</p> <p>(2) 学校規模、地域性等を考慮しながら、全県的視野に立った均衡ある配置を行う。</p> <p>(3) 特別支援学校教諭（小学部・中学部）採用者は、県立の特別支援学校及び市町村立学校の特別支援学級に配置を行う。</p> <p>3 転任等</p> <p>人材育成を図るため、採用から早い時期に異なる環境、多様な経験を積ませる。</p> <p>(1) 市町村立学校</p> <p>① 人事評価結果等を踏まえ、次のような課題に留意し、全県的視野に立った広域人事を一層推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校間において、専科教員の兼務発令などにより小中連携を強化する人事異動の推進 ・年齢、免許等を考慮した教職員構成の適正化 ・中学校における教科別教員構成の適正化 ・小・中学校における特別支援教育の専門性向上のための教職員の人材確保と適正配置 ・へき地学校における教職員の人材確保と適正配置 ・臨時講師比率の地域間格差の是正 ・教職員の人材育成の観点から、地域間・職種間・職種間の異動など多様な経験が可能となる適正配置 <p>② 学校支援センターについては、人事評価結果等を踏まえ、次のような課題に留意し、全県的視野に立った広域人事を一層推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校事務職員の人材育成と活用 ・学校支援センターの機能向上のための人員配置 <p>③ 学校事務職員及び養護教諭については、人材育成の観点から、県立学校との人事異動を促進する。</p> <p>④ 学校事務職員については、係長級在級5年以上の者のうち、勤務成績良好な者を主査から副主幹へ登用する。</p> <p>(2) 県立学校</p> <p>① 人事評価結果等を踏まえ、次のような課題に留意し、全県的な視野に立った適正な人事を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、免許等を考慮した教職員構成の適正化 ・教科別教員構成の適正化 ・同一校における勤務期間等 <p>② 県全体の学校力・教育力を向上するため、普通科系高等学校と専門学科系高等学校、大規模校と小規模校、全日制高等学校と定時制高等学校の人事異動を、それぞれ推進する。</p> <p>③ 高等学校と特別支援学校の人事異動を行うことにより、相互の特別支援教育の振興及び教職員の専門性の向上を図る。</p> <p>④ 学校教育目標の達成と学校活性化を図るため、教職員人事異動公募制度を実施する。</p> <p>⑤ 学校事務職員及び養護教諭については、人材育成の観点から、市町村立学校との人事異動を促進する。</p> <p>⑥ 学校事務職員については、係長級在級5年以上の者のうち、勤務成績良好な者を主査から副主幹へ登用する。</p> <p>(3) 特別支援学校については、市町村立学校からの異動者は原則として上記(1)の方針に、それ以外の教職員は原則として上記(2)の方針に、それぞれ従う。</p> <p>(4) 県立中学校については、市町村立学校からの異動者は原則として上記(1)の方針に、県立学校からの異動者は原則として上記(2)の方針に、それぞれ従う。</p> <p>第3 副校長、主幹教諭、指導教諭の配置</p> <p>校長がその指導力を発揮するとともに、組織運営体制、指導体制の充実や学校組織の活性化を図るため、引き続き必要と認める学校に副校長、主幹教諭、指導教諭を配置する。</p> <p>なお、主幹教諭の任用にあたっては、別に定めるところにより、教頭採用候補者名簿の登載者の中から、名簿の有効期間中に限り、教頭に任用されない者を、主幹教諭として任用することができるものとする。</p> <p>第4 退職</p> <p>1 希望退職者の募集等</p> <p>別に定めるところにより行う。</p> <p>2 再雇用制度</p> <p>新たな再雇用制度の開始に伴い、今後は再雇用希望者の増加が見込まれる。再雇用希望者については、長年の勤務内容を考慮し、適材適所の観点から、教職員定数の範囲内で再任用又は非常勤職員として配置する。</p>	<p>みまなげメント能力に秀でていて、学校事務を中心とする学校経営に手腕を有し実績を上げていること等</p> <p>(4) 民間人校長の登用にあたっては、その経験が学校経営に活かされ、波及効果が現れるように配置するとともに、適切な支援を行う。</p> <p>2 新採用</p> <p>(1) 平成27年度大分県公立学校教員採用予定者名簿に登載された者の中から採用する。</p> <p>(2) 学校規模、地域性等を考慮しながら、全県的視野に立った均衡ある配置を行う。</p> <p>(3) 特別支援学校教諭（小学部・中学部）採用者は、県立の特別支援学校及び市町村立学校の特別支援学級に配置を行う。</p> <p>3 転任等</p> <p>教育のプロとして人材育成を図るため、キャリア形成を意識し、採用から早い時期に異なる環境、多様な経験を積ませる。</p> <p>(1) 市町村立学校</p> <p>① 人事評価結果等を踏まえ、次のような課題に留意し、全県的視野に立った広域人事を一層推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校間において、専科教員の兼務発令などにより小中連携を強化する人事異動の推進 ・年齢、免許等を考慮した教職員構成の適正化 ・中学校における教科別教員構成の適正化 ・小・中学校における特別支援教育の専門性向上のための教職員の人材確保と適正配置 ・へき地学校における教職員の人材確保と適正配置 ・臨時講師比率の地域間格差の是正 ・教職員の人材育成の観点から、地域間・職種間・職種間の異動など多様な経験が可能となる適正配置 <p>② 学校支援センターについては、人事評価結果等を踏まえ、次のような課題に留意し、全県的視野に立った広域人事を一層推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校事務職員の人材育成と活用 ・学校支援センターの機能向上のための人員配置 <p>③ 学校事務職員及び養護教諭については、人材育成の観点から、県立学校との人事異動を促進する。</p> <p>④ 学校事務職員については、係長級在級5年以上の者のうち、勤務成績良好な者を主査から副主幹へ登用する。</p> <p>(2) 県立学校</p> <p>① 人事評価結果等を踏まえ、次のような課題に留意し、全県的な視野に立った適正な人事を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、免許等を考慮した教職員構成の適正化 ・教科別教員構成の適正化 ・同一校における勤務期間等 <p>② 県全体の学校力・教育力を向上するため、普通科系高等学校と専門学科系高等学校、大規模校と小規模校、全日制高等学校と定時制高等学校の人事異動を、それぞれ推進する。</p> <p>③ 高等学校と特別支援学校の人事異動を行うことにより、相互の特別支援教育の振興及び教職員の専門性の向上を図る。</p> <p>④ 学校教育目標の達成と学校活性化を図るため、教職員人事異動公募制度を実施する。</p> <p>⑤ 学校事務職員及び養護教諭については、人材育成の観点から、市町村立学校との人事異動を促進する。</p> <p>⑥ 学校事務職員については、係長級在級5年以上の者のうち、勤務成績良好な者を主査から副主幹へ登用する。</p> <p>(3) 特別支援学校については、市町村立学校からの異動者は原則として上記(1)の方針に、それ以外の教職員は原則として上記(2)の方針に、それぞれ従う。</p> <p>(4) 県立中学校については、市町村立学校からの異動者は原則として上記(1)の方針に、県立学校からの異動者は原則として上記(2)の方針に、それぞれ従う。</p> <p>第3 副校長、主幹教諭、指導教諭の配置</p> <p>校長がその指導力を発揮するとともに、組織運営体制、指導体制の充実や学校組織の活性化を図るため、引き続き必要と認める学校に副校長、主幹教諭、指導教諭を配置する。</p> <p>なお、主幹教諭の任用にあたっては、別に定めるところにより、<u>教頭採用資格保有者名簿</u>の登載者の中から、名簿の有効期間中に限り、教頭に任用されない者を、主幹教諭として任用することができるものとする。</p> <p>第4 退職</p> <p>1 希望退職者の募集等</p> <p>別に定めるところにより行う。</p> <p>2 再雇用制度</p> <p>新たな再雇用制度の開始に伴い、今後は再雇用希望者の増加が見込まれる。 再雇用希望者については、長年の勤務内容を考慮し、適材適所の観点から、教職員定数の範囲内で再任用又は非常勤職員として配置する。 また、若手教職員の人材育成の観点から、指導力に優れる教職員の再雇用配置を促進していく。</p>
--	---

平成27年度 大分県公立小・中学校教職員定期人事異動実施要綱

平成26年11月4日
大分県教育委員会議決

1 目的

この要綱は、「平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針」に基づき、公立小・中学校教職員の定期人事異動を実施するため必要な事項を定めるものとする。

2 異動基準

(1) 用語の定義

「広域的な異動」とは、(2)に示す人事地域間の異動をいう。

「標準規模以上の学校」とは、原則として小学校10学級以上、中学校6学級以上の学校をいう。

(2) 人事地域

人事地域は次の14地域とする。

1 中津市	2 宇佐市	3 豊後高田市
4 国東市・姫島村	5 杵築市・日出町	6 別府市
7 由布市	8 大分市	9 臼杵市・津久見市
10 佐伯市	11 竹田市	12 豊後大野市
13 日田市	14 玖珠町・九重町	

次に掲げる学校等については人事地域とみなす。

A 離島（姫島）にある学校
B 大分県立大分豊府中学校
C 大分大学教育福祉科学部附属学校
D 児童相談所
E 教育委員会事務局等
F 在外教育施設

(3) 管理職人事

- ① 全県的な教育水準の向上と均衡を図るため、これまでどおり広域的な異動を積極的に推進するとともに、学校種別間及び行政等との異動に努める。
- ② 市町村立学校支援センター（以下「支援センター」という。）所長については地域ごとの課題に的確に対応できる人事配置を行う。

(4) 一般教職員人事

- ① 人事評価結果や教職員一人ひとりの能力、適性、意欲を生かした人事配置に努める。
- ② 原則として同一校在職3年以上の者は異動の対象とし、特に同一校在職6年以上の者は積極的に異動を推進する。
- ③ 早い時期に広域的な異動を経験させるものとする。原則として、新採用からおおむね10年以内に3つ以上の人事地域を勤務するものとし、その間、標準規模以上の学校を1校以上経験する。
- ④ 原則として、同一人事地域に12年以上在職する者は、広域的な異動を積極的に推進する。

- ⑤ 原則として、校内人事における学級担任は、正規職員を配置する。
- ⑥ 特別支援教育の一層の充実を図るため、特別支援学校との人事異動を推進し、異動後の配置において、特別支援教育の中核となる人材を育成する。
- ⑦ 養護教諭については、原則として同一校在職3年以上の者を異動の対象とし、市町村立学校、県立学校及び教育委員会との人事異動を促進する。
- ⑧ 学校事務職員については、原則として同一校及び同一支援センター在職3年以上の者を異動の対象とし、市町村立学校、支援センター、県立学校及び教育委員会との人事異動を推進する。
- ⑨ 学校事務職員は、別途定める配置基準に基づき配置する。

(5) 新採用教職員人事

- ① 全県的視野に立ち配置する。
- ② 原則として標準規模以上の学校に配置する。
- ③ 原則として同一校在職3年以上の者は、広域的な異動の対象とし、積極的に推進する。
なお、平成24年度以降の特別支援学校教諭（小学部・中学部）採用者で、市町村立学校の特別支援学級に勤務する者については、原則として在職3年以上の者を異動対象とし、県立の特別支援学校との人事異動を行う。
- ④ 学校事務職員は、教育委員会、市町村立学校または支援センターに配置する。

	平成27年度																																									
<p>平成26年度 大分県公立小・中学校教職員定期人事異動実施要綱 (平成25年11月8日教育委員会議決)</p> <p>1 目的 この要綱は、「平成26年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針」に基づき、公立小中学校教職員の定期人事異動を実施するため必要な事項を定めるものとする。</p> <p>2 異動基準 (1) 用語の定義 「広域的な異動」とは、(2)に示す人事地域間の異動をいう。 「標準規模以上の学校」とは、原則として小学校10学級以上、中学校6学級以上の学校をいう。</p> <p>(2) 人事地域 人事地域は次の14地域とする。</p> <table border="1" data-bbox="863 1050 1056 1927"> <tr><td>1 中津市</td><td>2 宇佐市</td><td>3 豊後高田市</td></tr> <tr><td>4 国東市・姫島村</td><td>5 杵築市・日出町</td><td>6 別府市</td></tr> <tr><td>7 由布市</td><td>8 大分市</td><td>9 臼杵市・津久見市</td></tr> <tr><td>10 佐伯市</td><td>11 竹田市</td><td>12 豊後大野市</td></tr> <tr><td>13 日田市</td><td>14 玖珠町・九重町</td><td></td></tr> </table> <p>次に掲げる学校等については人事地域とみなす。</p> <table border="1" data-bbox="1169 1050 1362 1927"> <tr><td>A 離島(姫島)にある学校</td></tr> <tr><td>B 大分県立大分豊府中学校</td></tr> <tr><td>C 大分大学教育福祉科学部附属学校</td></tr> <tr><td>D 児童相談所</td></tr> <tr><td>E 教育委員会事務局等</td></tr> </table> <p>(3) 管理職人事 ① 全県的な教育水準の向上と均衡を図るため、これまでどおり広域的な異動を積極的推進するとともに、学校種別間及び行政等との異動に努める。 ② 市町村立学校支援センター(以下「支援センター」という。)所長については地域との課題に的確に対応できる人事配置を行う。</p> <p>(4) 一般教職員人事 ① 人事評価結果や教職員一人ひとりの能力、適性、意欲を生かした人事配置に努める。 ② 原則として同一校在職3年以上の者は異動の対象とし、特に同一校在職6年以上のは積極的に異動を推進する。 ③ 早い時期に広域的な異動を経験させるものとする。原則として、新採用からおおむね10年以内に3つ以上の人事地域を勤務するものとし、その間、標準規模以上の学校1校以上経験する。 ④ 原則として、同一人事地域に12年以上在職する者は、広域的な異動を積極的に推進する。 ⑤ 特別支援教育の一層の充実を図るため、特別支援学校との人事異動を推進し、異動後の配置において、特別支援教育の中核となる人材を育成する。 ⑥ 養護教諭については、原則として同一校在職3年以上の者を異動の対象とし、市町村立学校、県立学校及び教育委員会との人事異動を促進する。 ⑦ 学校事務職員については、原則として同一校及び同一支援センター在職3年以上の者を異動の対象とし、市町村立学校、支援センター、県立学校及び教育委員会との人事異動を推進する。 ⑧ 学校事務職員は、別途定める配置基準に基づき配置する。</p> <p>(5) 新採用教職員人事 ① 全県的視野に立ち配置する。 ② 原則として標準規模以上の学校に配置する。 ③ 原則として同一校在職3年以上の者は、広域的な異動の対象とし、積極的に推進する。 なお、平成24年度以降の特別支援学校教諭(小学部・中学部)採用者で、市町村立学校の特別支援学級に勤務する者については、原則として在職3年以上の者を異動対象とし、県立の特別支援学校との人事異動を行う。 ④ 学校事務職員は、教育委員会、市町村立学校または支援センターに配置する。</p>	1 中津市	2 宇佐市	3 豊後高田市	4 国東市・姫島村	5 杵築市・日出町	6 別府市	7 由布市	8 大分市	9 臼杵市・津久見市	10 佐伯市	11 竹田市	12 豊後大野市	13 日田市	14 玖珠町・九重町		A 離島(姫島)にある学校	B 大分県立大分豊府中学校	C 大分大学教育福祉科学部附属学校	D 児童相談所	E 教育委員会事務局等	<p>平成27年度 大分県公立小・中学校教職員定期人事異動実施要綱(案) (平成26年11月4日教育委員会議決)</p> <p>1 目的 この要綱は、「平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針」に基づき、公立小中学校教職員の定期人事異動を実施するため必要な事項を定めるものとする。</p> <p>2 異動基準 (1) 用語の定義 「広域的な異動」とは、(2)に示す人事地域間の異動をいう。 「標準規模以上の学校」とは、原則として小学校10学級以上、中学校6学級以上の学校をいう。</p> <p>(2) 人事地域 人事地域は次の14地域とする。</p> <table border="1" data-bbox="863 121 1056 999"> <tr><td>1 中津市</td><td>2 宇佐市</td><td>3 豊後高田市</td></tr> <tr><td>4 国東市・姫島村</td><td>5 杵築市・日出町</td><td>6 別府市</td></tr> <tr><td>7 由布市</td><td>8 大分市</td><td>9 臼杵市・津久見市</td></tr> <tr><td>10 佐伯市</td><td>11 竹田市</td><td>12 豊後大野市</td></tr> <tr><td>13 日田市</td><td>14 玖珠町・九重町</td><td></td></tr> </table> <p>次に掲げる学校等については人事地域とみなす。</p> <table border="1" data-bbox="1169 121 1391 999"> <tr><td>A 離島(姫島)にある学校</td></tr> <tr><td>B 大分県立大分豊府中学校</td></tr> <tr><td>C 大分大学教育福祉科学部附属学校</td></tr> <tr><td>D 児童相談所</td></tr> <tr><td>E 教育委員会事務局等</td></tr> <tr><td>F 在外教育施設</td></tr> </table> <p>(3) 管理職人事 ① 全県的な教育水準の向上と均衡を図るため、これまでどおり広域的な異動を積極的推進するとともに、学校種別間及び行政等との異動に努める。 ② 市町村立学校支援センター(以下「支援センター」という。)所長については地域との課題に的確に対応できる人事配置を行う。</p> <p>(4) 一般教職員人事 ① 人事評価結果や教職員一人ひとりの能力、適性、意欲を生かした人事配置に努める。 ② 原則として同一校在職3年以上の者は異動の対象とし、特に同一校在職6年以上のは積極的に異動を推進する。 ③ 早い時期に広域的な異動を経験させるものとする。原則として、新採用からおおむね10年以内に3つ以上の人事地域を勤務するものとし、その間、標準規模以上の学校1校以上経験する。 ④ 原則として、同一人事地域に12年以上在職する者は、広域的な異動を積極的に推進する。 ⑤ 原則として、校内人事における学級担任は、正規職員を配置する。 ⑥ 特別支援教育の一層の充実を図るため、特別支援学校との人事異動を推進し、異動後の配置において、特別支援教育の中核となる人材を育成する。 ⑦ 養護教諭については、原則として同一校在職3年以上の者を異動の対象とし、市町村立学校、県立学校及び教育委員会との人事異動を促進する。 ⑧ 学校事務職員については、原則として同一校及び同一支援センター在職3年以上の者を異動の対象とし、市町村立学校、支援センター、県立学校及び教育委員会との人事異動を推進する。 ⑨ 学校事務職員は、別途定める配置基準に基づき配置する。</p> <p>(5) 新採用教職員人事 ① 全県的視野に立ち配置する。 ② 原則として標準規模以上の学校に配置する。 ③ 原則として同一校在職3年以上の者は、広域的な異動の対象とし、積極的に推進する。 なお、平成24年度以降の特別支援学校教諭(小学部・中学部)採用者で、市町村立学校の特別支援学級に勤務する者については、原則として在職3年以上の者を異動対象とし、県立の特別支援学校との人事異動を行う。 ④ 学校事務職員は、教育委員会、市町村立学校または支援センターに配置する。</p>	1 中津市	2 宇佐市	3 豊後高田市	4 国東市・姫島村	5 杵築市・日出町	6 別府市	7 由布市	8 大分市	9 臼杵市・津久見市	10 佐伯市	11 竹田市	12 豊後大野市	13 日田市	14 玖珠町・九重町		A 離島(姫島)にある学校	B 大分県立大分豊府中学校	C 大分大学教育福祉科学部附属学校	D 児童相談所	E 教育委員会事務局等	F 在外教育施設
1 中津市	2 宇佐市	3 豊後高田市																																								
4 国東市・姫島村	5 杵築市・日出町	6 別府市																																								
7 由布市	8 大分市	9 臼杵市・津久見市																																								
10 佐伯市	11 竹田市	12 豊後大野市																																								
13 日田市	14 玖珠町・九重町																																									
A 離島(姫島)にある学校																																										
B 大分県立大分豊府中学校																																										
C 大分大学教育福祉科学部附属学校																																										
D 児童相談所																																										
E 教育委員会事務局等																																										
1 中津市	2 宇佐市	3 豊後高田市																																								
4 国東市・姫島村	5 杵築市・日出町	6 別府市																																								
7 由布市	8 大分市	9 臼杵市・津久見市																																								
10 佐伯市	11 竹田市	12 豊後大野市																																								
13 日田市	14 玖珠町・九重町																																									
A 離島(姫島)にある学校																																										
B 大分県立大分豊府中学校																																										
C 大分大学教育福祉科学部附属学校																																										
D 児童相談所																																										
E 教育委員会事務局等																																										
F 在外教育施設																																										

平成27年度 大分県立学校教職員定期人事異動実施要綱

(平成26年11月4日教育長決裁)

1 目的

この要綱は、「平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針」に基づき、大分県立学校教職員の定期人事異動を実施するため必要な事項を定めるものとする。

2 異動基準

(1) 行政区

行政区は市町村単位とし、より一層の適材適所の配置に努める。

ただし 大分豊府中学校、定時制高校、通信制高校、教育委員会等（附属特別支援学校・附属中学校を含む）は、別行政区として扱う。

(2) 管理職人事

- ① 各学校における特色ある教育活動の一層の充実を図るため、異動を積極的に推進するとともに、学校種別間及び課程間、行政等との異動に努める。
- ② 事務長については、学校と教育委員会事務局間との異動を推進する。

(3) 一般教職員人事

- ① 人事評価等を踏まえ、教職員一人ひとりの特性や能力を生かした異動に努める。
- ② 原則として、転任は行政区を変えるものとし、広域的な人事異動を推進する。
- ③ 原則として、同一校在職3年以上の者を異動の対象とし、以下の者の異動を推進する。

A	:	新採用の学校に3年以上在職する者
B	:	2校目の学校に3年以上在職する者
C	:	3校目以後の学校に6年以上在職する者

- ④ 教職員の適正配置及び人材育成の推進を図るため、採用から早い時期に普通科高校と専門高校間の異動を推進する。
- ⑤ 特別支援教育の一層の充実を図るため高等学校から特別支援学校への異動を推進する。
- ⑥ 新設校等の支援及び特色ある学校づくりの推進を図るため、別に定めるところにより教職員人事異動公募制度を実施する。
- ⑦ 原則として、特別支援学校へ異動する者は、特別支援学校免許所有者とし、所有していない者は、異動後に特別支援学校免許を取得することとする。
- ⑧ 課程間、異校種間、行政等との人事異動を推進する。
- ⑨ 養護教諭については、原則として同一校在職3年以上の者を異動の対象とし、県立学校と市町村立学校及び教育委員会との人事異動を促進する。
- ⑩ 学校事務職員については、同一校在職3年以上で異動対象とし、教育委員会、市町村立学校、支援センター等との人事異動を促進する。
- ⑪ 学校司書については、人材育成の観点から県立図書館との人事異動を推進する。
- ⑫ 平成24年度以降の特別支援学校教諭（小学部・中学部）採用者は、県立の特別支援学校及び市町村立学校の特別支援学級との人事異動を推進する。

(4) 新採用教職員人事

- ① 原則として、高等学校は、適正規模（1学年4学級以上）の学校に配置する。
- ② 特別支援学校教諭（小学部・中学部）採用者は、県立の特別支援学校及び市町村立学校の特別支援学級に配置する。

(5) 留意事項

- ① 学校運営上等の必要があれば異動対象者以外の異動を行う。
- ② 別府市立別府商業高等学校は、別府市の学校に準じる。
- ③ 定時制高校間及び同一行政区内の高校と特別支援学校の異動を認め、かつ行政区を変更したものとして扱う。
- ④ 原則として、小・中学校・高等学校採用者の特別支援学校間（大分大学教育福祉科学部附属特別支援学校を除く）異動は、行わない。

現行	平成27年度
<p>平成26年度 大分県立学校教職員定期人事異動実施要綱 (平成25年11月8日教育長決裁)</p> <p>1 目的 この要綱は、「平成26年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針」に基づき、大分県立学校教職員の定期人事異動を実施するため必要な事項を定めるものとする。</p> <p>2 異動基準</p> <p>(1) 行政区 行政区は市町村単位とし、より一層の適材適所の配置に努める。ただし、大分豊府中学校、定時制高校、通信制高校、教育委員会等(附属特別支援学校・附属中学校を含む)は、別行政区として扱う。</p> <p>(2) 管理職人事 ① 各学校における特色ある教育活動の一層の充実を図るため、異動を積極的に進ずるとともに、学校種別間及び課程間、行政等との異動に努める。 ② 事務長については、学校と教育委員会事務局との異動を推進する。</p> <p>(3) 一般教職員人事 ① 人事評価等を踏まえ、教職員一人ひとりの特性や能力を生かした異動に努める。 ② 原則として、転任は行政区を変えらるものとし、広域的な人事異動を推進する。 ③ 原則として、同一校在職3年以上の者を異動の対象とし、以下の者の異動を推進する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A : 新採用の学校に3年以上在職する者 B : 2校目の学校に3年以上在職する者 C : 3校目以後の学校に6年以上在職する者</p> </div> <p>④ 教職員の適正配置及び人材育成の推進を図るため、採用から早い時期に普通高校と専門高校間の異動を推進する。 ⑤ 特別支援教育の一層の充実を図るため高等学校から特別支援学校への異動を推進する。 ⑥ 新設校等の支援及び特色ある学校づくりの推進を図るため、別に定めるところにより教職員人事異動公募制度を実施する。 ⑦ 原則として、特別支援学校へ異動する者は、特別支援学校免許所所有者とし、所有していない者は、異動後に特別支援学校免許を取得することとする。 ⑧ 課程間、異校種間、行政等との人事交流を推進する。 ⑨ 養護教諭については、原則として同一校在職3年以上の者を異動の対象とし県立学校と市町村立学校及び教育委員会との人事異動を促進する。 ⑩ 学校事務職員については、同一校在職3年以上で異動対象とし、教育委員会、市町村立学校、支援センター等との人事異動を促進する。 ⑪ 学校司書については、人材育成の観点から県立図書館との人事異動を推進する。 ⑫ 平成24年度以降の特別支援学校教諭(小学部・中学部)採用者は、県立の特別支援学校及び市町村立学校の特別支援学級との人事交流を推進する。</p> <p>(4) 新採用教職員人事 ① 原則として、高等学校は、適正規模(1学年4学級以上)の学校に配置する。 ② 特別支援学校教諭(小学部・中学部)採用者は、県立の特別支援学校及び市町村立学校の特別支援学級に配置する。</p> <p>(5) 留意事項 ① 学校運営上等の必要があれば異動対象者以外の異動を行う。 ② 別府市立別府商業高等学校は、別府市の学校に準じる。 ③ 定時制高校間及び同一行政区内の高校と特別支援学校の異動を認め、かつ行政区を変更したものと扱う。 ④ 原則として、小・中学校・高等学校採用者の特別支援学校間(大分大学教育福祉学部附属特別支援学校を除く)異動は、行わない。</p>	<p>平成27年度 大分県立学校教職員定期人事異動実施要綱(案) (平成26年11月4日教育長決裁)</p> <p>1 目的 この要綱は、「平成27年度大分県公立学校教職員定期人事異動方針」に基づき、大分県立学校教職員の定期人事異動を実施するため必要な事項を定めるものとする。</p> <p>2 異動基準</p> <p>(1) 行政区 行政区は市町村単位とし、より一層の適材適所の配置に努める。ただし、大分豊府中学校、定時制高校、通信制高校、教育委員会等(附属特別支援学校・附属中学校を含む)は、別行政区として扱う。</p> <p>(2) 管理職人事 ① 各学校における特色ある教育活動の一層の充実を図るため、異動を積極的に進ずるとともに、学校種別間及び課程間、行政等との異動に努める。 ② 事務長については、学校と教育委員会事務局との異動を推進する。</p> <p>(3) 一般教職員人事 ① 人事評価等を踏まえ、教職員一人ひとりの特性や能力を生かした異動に努める。 ② 原則として、転任は行政区を変えらるものとし、広域的な人事異動を推進する。 ③ 原則として、同一校在職3年以上の者を異動の対象とし、以下の者の異動を推進する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A : 新採用の学校に3年以上在職する者 B : 2校目の学校に3年以上在職する者 C : 3校目以後の学校に6年以上在職する者</p> </div> <p>④ 教職員の適正配置及び人材育成の推進を図るため、採用から早い時期に普通高校と専門高校間の異動を推進する。 ⑤ 特別支援教育の一層の充実を図るため高等学校から特別支援学校への異動を推進する。 ⑥ 新設校等の支援及び特色ある学校づくりの推進を図るため、別に定めるところにより教職員人事異動公募制度を実施する。 ⑦ 原則として、特別支援学校へ異動する者は、特別支援学校免許所所有者とし、所有していない者は、異動後に特別支援学校免許を取得することとする。 ⑧ 課程間、異校種間、行政等との人事交流を推進する。 ⑨ 養護教諭については、原則として同一校在職3年以上の者を異動の対象とし県立学校と市町村立学校及び教育委員会との人事異動を促進する。 ⑩ 学校事務職員については、同一校在職3年以上で異動対象とし、教育委員会、市町村立学校、支援センター等との人事異動を促進する。 ⑪ 学校司書については、人材育成の観点から県立図書館との人事異動を推進する。 ⑫ 平成24年度以降の特別支援学校教諭(小学部・中学部)採用者は、県立の特別支援学校及び市町村立学校の特別支援学級との人事交流を推進する。</p> <p>(4) 新採用教職員人事 ① 原則として、高等学校は、適正規模(1学年4学級以上)の学校に配置する。 ② 特別支援学校教諭(小学部・中学部)採用者は、県立の特別支援学校及び市町村立学校の特別支援学級に配置する。</p> <p>(5) 留意事項 ① 学校運営上等の必要があれば異動対象者以外の異動を行う。 ② 別府市立別府商業高等学校は、別府市の学校に準じる。 ③ 定時制高校間及び同一行政区内の高校と特別支援学校の異動を認め、かつ行政区を変更したものと扱う。 ④ 原則として、小・中学校・高等学校採用者の特別支援学校間(大分大学教育福祉学部附属特別支援学校を除く)異動は、行わない。</p>

第69回国民体育大会

長崎がんばらんば国体 2014

競技成績

大分県の競技得点

《 会期前実施競技合計 》	28.0 点
《10月13日(第2日目) 》	11.5 点
《10月14日(第3日目) 》	67.0 点
《10月15日(第4日目) 》	122.0 点
《10月16日(第5日目) 》	61.0 点
《10月17日(第6日目) 》	46.0 点
《10月18日(第7日目) 》	14.0 点
《10月19日(第8日目) 》	55.0 点
《10月20日(第9日目) 》	39.5 点
《10月21日(第10日目) 》	52.0 点
《10月22日(第11日目) 》	0.0 点
競技得点計	496.0 点
参加得点計	400.0 点(冬季大会含む)
合 計	896.0 点

天皇杯順位 第 28 位

公益財団法人大分県体育協会

第69回国民体育大会 成績

冬季大会： 栃 木 県 1月26日～2月 2日

(スケート競技:ショートトラック・フィギュア、アイスホッケー競技)

山 形 県 2月21日～2月24日(スキー競技)

本大会： 長 崎 県 10月12日～10月22日

(会期前実施 水泳競技・カヌー(S・W)競技) 9月7日～9月14日

1. 大分県の総合成績(天皇杯・皇后杯) ()内は昨年成績

天皇杯順位・得点	28位(22位)	896.0点(944.0点)
皇后杯順位・得点	36位(20位)	445.0点(469.5点)

2. 都道府県総合成績

順位	県名	総合得点	順位	県名	総合得点
1位	長崎	2364.00	25位	宮城	934.00
2位	東京	2113.50	26位	静岡	917.00
3位	愛知	1886.50	27位	鹿児島	897.50
4位	大阪	1807.50	28位	大分	896.00
5位	埼玉	1702.50	29位	山梨	892.00
6位	神奈川	1649.50	30位	山形	870.00
7位	福岡	1509.50	31位	茨城	852.50
8位	北海道	1484.50	32位	三重	834.00
9位	岐阜	1439.50	33位	富山	830.50
10位	千葉	1394.00	34位	福島	823.00
11位	兵庫	1314.00	35位	滋賀	810.50
12位	京都	1222.50	35位	奈良	810.50
13位	岡山	1195.50	37位	岩手	807.50
14位	群馬	1139.00	38位	鳥取	790.00
15位	和歌山	1063.00	39位	佐賀	783.00
16位	石川	1027.50	40位	新潟	780.00
17位	福井	1018.50	41位	香川	779.50
18位	広島	1012.50	42位	秋田	769.00
19位	宮崎	1001.00	43位	青森	758.50
20位	長野	997.00	44位	沖縄	726.00
21位	愛媛	984.50	45位	島根	555.00
22位	山口	971.50	46位	徳島	550.00
23位	栃木	966.50	47位	高知	539.00
24位	熊本	935.00			

3. 九州各県総合成績比較 ()内は昨年成績

順位	県名	九州ブロック大会 代表権獲得数	男女総合順位	
			得点	全国順位
1位	長崎	※(65)	2364.0 (1219.5)	1位 (10)
2位	福岡	76(67)	1509.5 (1410.0)	7位 (8)
3位	宮崎	42(35)	1001.0 (778.0)	19位 (38)
4位	熊本	63(55)	935.0 (923.5)	24位 (27)
5位	鹿児島	45(39)	897.5 (815.5)	27位 (36)
6位	大分	54(56)	896.0 (944.0)	28位 (22)
7位	佐賀	36(26)	783.0 (651.0)	39位 (44)
8位	沖縄	25(30)	726.0 (719.5)	44位 (43)

※長崎県は国体開催県につき、九州ブロック大会不参加

第69回国民体育大会 長崎がんばらんば国体 優勝一覧

【競技別総合優勝】1競技(昨年度なし)

フェンシング競技	○ 成年男子 団体(フルーレ)	優勝	24点	獲得得点88点 (参加点10点を含む)
	○ 成年女子 団体(エペ)	優勝	24点	
	○ 成年女子 団体(フルーレ)	3位	18点	
	○ 少年男子 団体(フルーレ)	5位	12点	

【種目優勝】7競技9種目(4競技5種目)

■団体 2競技3種目(1競技1種目)

フェンシング競技	○ 成年男子 団体(フルーレ) 大分県選抜 村上 仁紀 (別府鶴見丘高校(教)) 木辺 啓二 (大分聾学校(職)) 大石 利樹 (法政大学)	競技得点24点
フェンシング競技	○ 成年女子 団体(エペ) 大分県選抜 松木 瞳 (ジェネシスヘルスケア株式会社) 大石 栞菜 (法政大学) 横井 七恵 (日本大学)	競技得点24点
ボート競技	○ 少年女子 ダブルスカル 大分県選抜 高野 晃帆 (日田三隈高校) 大門 千紗 (日田林工高校)	競技得点24点

■個人 5競技6種目(3競技4種目)

水泳競技(競泳)	○ 少年男子A 200m平泳ぎ 決勝記録 2分10秒58 渡辺 一平 (佐伯鶴城高校)	競技得点 8点
ボクシング競技	○ 成年男子 ライト級 木本 盛宝 (日本大学)	競技得点 8点
ウェイトリフティング 競技	○ 少年男子 +105kg級スナッチ 決勝記録 136kg 野中 雅浩 (大分工業高校)	競技得点 8点
	○ 少年男子 +105kg級クリーン&ジャーク 決勝記録 180kg 野中 雅浩 (大分工業高校)	競技得点 8点
自転車競技	○ 少年男子 ケイリン 決勝記録 11秒431 阿部 将大 (日出暘谷高校)	競技得点 8点
レスリング競技	○ 成年男子 フリースタイル(97kg級) 坂本 憲蔵 (陸上自衛隊別府駐屯地)	競技得点 4.5点 ※1位タイ

※レスリング成年男子フリースタイルは、台風による日程変更で準々決勝進出者8名が1位タイとなる。

第69回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」大分県代表团 入賞一覧

入賞数 21競技66種目（昨年度:21競技68種目） 獲得競技得点 496.0点（昨年度:544点）

	順位	競技名	種別	種目	選手名(所属)	競技得点
1	1位	水泳(競泳)	少年男子A	200m平泳ぎ	渡辺一平(佐伯鶴城高校)	8.0点
2		フェンシング	成年男子	フルーレ	村上仁紀(別府鶴見丘高校教)、木辺啓二(県立豊学校職)、大石利樹(法政大学)	24.0点
3		フェンシング	成年女子	エペ	松木暉(シエンスヘルスケア)、大石葉菜(法政大学)、横井七恵(日本大学)	24.0点
4		自転車	少年男子	ケイリン	阿部将大(日出陽谷高校)	8.0点
5		ウエイトリフティング	少年男子	+105kg級スナッチ	野中雅浩(大分工業高校)	8.0点
6		ウエイトリフティング	少年男子	+105kg級クリーン&ジャーク	野中雅浩(大分工業高校)	8.0点
7		ボクシング	成年男子	ライト級	木本盛宝(日本大学)	8.0点
8		ボート	少年女子	ダブルスカル	高野晃帆(日田三隈高校)、大門千紗(日田林工高校)	24.0点
9	1位タイ	レスリング	成年男子	フリースタイル(97kg級)	坂本憲蔵(陸上自衛隊別府駐屯地)	4.5点
10	2位	水泳(競泳)	少年男子A	100m自由形	渡辺一平(佐伯鶴城高校)	7.0点
11		銃剣道	成年男子	団体	西村健一・西村健・小田昌樹(陸上自衛隊別府駐屯地)	21.0点
12		自転車	少年男子	ポイントレース	高橋優斗(日出陽谷高校)	7.0点
13		ライフル射撃	少年男子	BP40JM	工藤湧士(由布高校)	7.0点
14		ボート	少年男子	ダブルスカル	中原友朗(日田高校)、河津蒼摩(日田林工高校)	21.0点
15	3位	水泳(競泳)	少年男子A	50m自由形	原田晃世(別府青山高校)	6.0点
16		空手道	成年男子	組手 中量級	藤澤貴樹(京都産業大学)	6.0点
17		フェンシング	成年女子	フルーレ	松木暉(シエンスヘルスケア)、大石葉菜(法政大学)、横井七恵(日本大学)	18.0点
18		ボウリング	成年男子	個人戦	大秋 稜(NPO法人「もあ・かけはし」通所工房I-TEM)	6.0点
19		アーチェリー	成年男子	団体	大野佑貴(由布市役所)、天野良太(ミカハウス)、金子令(三重県朝日町立朝日小学校教)	18.0点
20		ボウリング	成年男子	2人チーム戦	大秋 稜(NPO法人「もあ・かけはし」通所工房I-TEM)、緒方正(大分商業高校教)	18.0点
21		セーリング	成年女子	セーリングスピリッツ級	後藤沙季(大分県教育庁)、後藤沙織(明治安田生命保険相互会社)	18.0点
22		ライフル射撃	少年男子	10mS60JM	八川綾佑(由布高校)	6.0点
23	4位	ウエイトリフティング	少年男子	53kg級スナッチ	砂山昂大(宇佐高校)	5.0点
24		ウエイトリフティング	少年男子	53kg級クリーン&ジャーク	砂山昂大(宇佐高校)	5.0点
25		ウエイトリフティング	少年男子	62kg級クリーン&ジャーク	佐藤右規(宇佐高校)	5.0点
26		カヌー	成年男子	スプリントC-1(500m)	長井海斗(株式会社ハイデイ日高)	5.0点
27		セーリング	少年女子	シーホッパー級スモールリグ	赤嶺華歩(別府青山高校)	5.0点
28		自転車	成年男子	4km速度競走	黒枝咲哉(鹿屋体育大学)	5.0点
29		剣道	少年男子	団体	板井潤貴・黒木誠(大分舞鶴高校)高山泰佳・河内隼斗・中根成那(杵築高校)	25.0点

	順位	競技名	種別	種目	選手名(所属)	競技得点
30	5位	ウエイトリフティング	成年男子	105kg級スナッチ	赤松哲郎(法政大学)	4.0点
31		フェンシング	少年男子	フルーレ	上野優斗(別府市立山の手)、石井魁(玖珠町立北山田中)、荒金泰成(別府市立朝日中)	12.0点
32		セーリング	成年男子	国体ウインドサーフィン級	黒石勇次(北杵築郵便局)	4.0点
33		セーリング	少年男子	セーリングスピリッツ級	矢野航志・大野将寿(別府青山高校)	12.0点
34		なぎなた	少年女子	試合	園田茉央(福德学院高校)、川野柚奈・河野志保(大分西高校)	12.0点
35		陸上競技	少年女子共通	砲丸投	川野尚美(大分雄城台高校)	4.0点
36	5位タイ	空手道	成年女子	組手	大野ひかる(同志社大学)	2.5点
37		レスリング	少年男子	フリースタイル(120kg級)	魚見友浩(日本文理大学附属高校)	2.5点
38		レスリング	成年男子	グレコローマン(71kg級)	盛根聖太(日本文理大学)	2.5点
39		レスリング	成年男子	グレコローマン(75kg級)	亀井竜昇(自衛隊体育学校)	2.5点
40		ソフトボール	成年女子	団体	大分県選抜	20.0点
41		ソフトボール	成年男子	団体	大分県選抜	20.0点
42	6位	ウエイトリフティング	成年男子	56kg級クリーン&ジャーク	古庄佑基(大分県警察)	3.0点
43		ウエイトリフティング	成年男子	85kg級スナッチ	児玉友稀(日本体育大学)	3.0点
44		水泳(競泳)	少年男子A	400m個人メドレー	伊藤海輝(大分雄城台高校)	3.0点
45		ウエイトリフティング	少年男子	62kg級スナッチ	佐藤右規(宇佐高校)	3.0点
46		自転車	男子	4km団体追抜競走	一丸尚伍(法政大学)、阿部将大・高橋優斗・高橋隼一郎(日出暁谷・日出総合高校)	3.0点
47		自転車	成年男子	1kmタイムトライアル	一丸尚伍(法政大学)	3.0点
48		カヌー	成年男子	スプリントC-1(200m)	長井海斗(株式会社ハイデイ日高)	3.0点
49		ボート	成年女子	シングルスカル	林真奈美(ひた市ボート部)	3.0点
50		ボート	成年男子	シングルスカル	林 仁哉(日田三隈高校教)	3.0点
51		7位	ウエイトリフティング	成年男子	94kg級スナッチ	衛藤靖弘(県ウエイトリフティング協会)
52	カヌー		成年女子	ワイルドウォーターK-1(1500m)	佐竹 恵(県カヌー協会)	2.0点
53	カヌー		成年女子	ワイルドウォーターK-1(スプリント)	佐竹 恵(県カヌー協会)	2.0点
54	自転車		少年男子	1kmタイムトライアル	佐藤文俊(日出総合高校)	2.0点
55	自転車		少年男子	4km速度競走	高橋隼一郎(日出暁谷高校)	2.0点
56	陸上競技		少年男子B	110mH	杉山孟示(大分雄城台高校)	2.0点
57	7位タイ	バレーボール	少年女子	団体	東九州龍谷高校	7.5点
58	8位	弓道	成年女子	遠的	吉武美智代(白石総合コンサルタント)、石井加奈子(大分バス)、濱田昌子(日田高校教)	3.0点
59		テニス	成年女子	団体	円本彩也香(神戸親和女子大学)、鐘江真央(福岡大学)	3.0点
60		テニス	少年女子	団体	伊藤有希(福德学院高校)、松尾風香(明豊高校)	3.0点
61		ライフル射撃	成年女子	50mP60W	森 瑞希(同志社大学)	1.0点
62		陸上競技	少年女子A	100m	足立紗矢香(大分雄城台高校)	1.0点
63		陸上競技	少年女子B	1500m	工藤杏華(大分西高校)	1.0点
64		陸上競技	少年男子A	ハンマー投	長谷川 武(国東高校双国校)	1.0点
65		ライフル射撃	成年女子	50m3×20W	森 瑞希(同志社大学)	1.0点
66		ボート	少年男子	シングルスカル	梅木遼太郎(日田高校)	1.0点

第69回 国民体育大会「長崎がんばらんば国体」大分県代表団 成績一覧

《陸上競技》 競技得点 9.0点(14.0点) ()内は昨年の競技得点

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	100m	竹島 大喜	大分大学	予選4組 10秒57 組3位		
				準決勝2組 10秒61 組7位		
	400m	木村 賢太	早稲田大学	予選1組 47秒00 組1位 準決勝2組 47秒19 組5位		
	走高跳	菅 隆徳	竹田支援学校(教)	決勝 2m03	18位	
成年女子	100m	三代 友紀	福岡大学	予選4組 12秒57 組6位		
	100mH	田邊 ちひろ	城西大学	予選3組 14秒12 組6位		
	ハンマー投	山本 匠子	鹿屋体育大学	決勝 49m83	14位	
	やり投	川述 優	TOP	決勝 50m28	9位	
少年男子 A	100m	富永 貴弘	佐伯鶴城高等学校	予選5組 11秒49 組8位		
	400mH	武藤 拓海	佐伯鶴城高等学校	予選2組 55秒10 組6位		
	400m	松清 和希	楊志館高等学校	予選2組 48秒10 組3位		
				準決勝1組 48秒81 組7位		
	5000m	竹石 尚人	鶴崎工業高等学校	決勝 14分32秒29	22位	
	走幅跳	高橋 祥希	佐伯鶴城高等学校	決勝 6m90	30位	
ハンマー投	長谷川 武	国東高等学校双国校	決勝 54m34	8位	1点	
少年男子 B	100m	岩崎 太志	大分市立大在中学校	予選2組 11秒41 組9位		
	110mH	杉山 孟示	大分雄城台高等学校	予選2組 14秒46 組2位	7位	2点
決勝 14秒51						
少年男子 共通	800m	加藤 健吾	楊志館高等学校	予選4組 1分55秒45 組6位		
	円盤投	森永 太一郎	国東高等学校	決勝 40m43	17位	
	三段跳	佐藤 拓実	大分舞鶴高等学校	決勝 14m65	9位	
少年女子 A	100m	足立 紗矢香	大分雄城台高等学校	予選5組 12秒01 組1位	8位	1点
				準決勝B組 12秒09 組4位		
				決勝 12秒07		
400mH	兒玉 彩希	大分雄城台高等学校	予選1組 1分01秒50 組6位			
走幅跳	藤本 想果	大分高等学校	決勝 5m59	17位		
少年女子 B	100m	大平 穂乃佳	大分舞鶴高等学校	予選2組 12秒47 組5位		
	1500m	工藤 杏華	大分西高等学校	予選1組 4分28秒62 組3位	8位	1点
				決勝 4分27秒51		
走幅跳	宮地 海希	佐伯鶴城高等学校	決勝B組 5m59	14位		
少年女子 共通	800m	首藤 紗英	大分西高等学校	予選1組 2分12秒12 組3位		
	砲丸投	川野 尚美	大分雄城台高等学校	決勝 13m50	5位	4点
	やり投	長岡 葉奈	鶴崎工業高等学校	決勝 42m13	20位	
	棒高跳	乙津 侑加	大分工業高等学校	決勝 3m45	10位	
成年少年 男子共通	4×100mリレー	大分県選抜(岩崎・竹島・松清・木村)		予選5組 41秒12 組8位		
成年少年 女子共通	4×100mリレー	大分県選抜(田邊・三代・大平・足立)		予選3組 46秒30 組3位		
				準決勝2組 46秒52 組5位		

《水泳(水球)》 競技得点 0点(0点)

種別	団体名・選手名	成績	順位	得点
少年男子	大分県選抜(大分商業高等学校)	1回戦		
	監督 渡辺俊明(大分水球クラブ) 選手 益永陸・吉村崇・宇都宮高明・木野村蓮・丸山勝海・清田貴博 高橋堅登・永松遼真・久米楓也・木野村凜・北原耀	● 大分 6 - 8 静岡 ○ 〔 2 - 1 〕 〔 2 - 4 〕 〔 2 - 2 〕 〔 0 - 1 〕		

《水泳(競泳)》 競技得点 24.0点(24.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績	順位	得点
成年男子	100m自由形	原田 侑弥 山梨学院大学	予選3組 51 秒 36 組 5位		
	100m平泳ぎ	堤 大陸 法政大学	予選3組 1 分 03 秒 38 組 6位		
成年女子	100m背泳ぎ	大西 綾香 筑波大学	予選2組 1 分 05 秒 67 組 7位		
少年男子 A	200m平泳ぎ	渡辺 一平 佐伯鶴城高等学校	予選4組 2 分 13 秒 92 予選 1位	1位	8点
			決勝 2 分 10 秒 58		
	100m自由形		予選3組 51 秒 55 組 1位	2位	7点
			決勝 50 秒 69		
	400m個人メドレー	伊藤 海輝 大分雄城台高等学校	予選1組 4 分 24 秒 71 組 2位	6位	3点
			決勝 4 分 24 秒 47		
	50m自由形	原田 晃世 別府青山高等学校	予選2組 23 秒 71 組 2位	3位	6点
決勝 23 秒 50					
400m自由形	近藤 樹 高田高等学校	予選1組 3 分 59 秒 34 組 3位			
800mリレー	大分県選抜 選手 近藤 樹(高田高等学校) 渡辺一平(佐伯鶴城高等学校) 伊藤海輝(大分雄城台高等学校) 井門裕暁(別府青山高等学校)	予選2組 7 分 39 秒 11 予選 10位			
400mメドレーリレー	大分県選抜 選手 清家 涼(佐伯鶴城高等学校) 渡辺一平(佐伯鶴城高等学校) 伊藤海輝(大分雄城台高等学校) 近藤 樹(高田高等学校)	予選2組 3 分 50 秒 16 組 5位			
少年男子 B	400mメドレーリレー	大分県選抜 選手 一ノ宮 陸(日田市立東部中学校) 浅井拓実(大分雄城台高等学校) 松尾真理(大分雄城台高等学校) 小野翔真(大分市立鶴崎中学校)	予選3組 3 分 59 秒 74 組 6位		
	100m平泳ぎ	浅井 拓実 大分雄城台高等学校	予選1組 1 分 05 秒 46 組 1位		
	200m個人メドレー	伊東 裕貴 別府青山高等学校	予選3組 2 分 11 秒 36 組 7位		
少年女子A	200mバタフライ	清田 葉那 大分雄城台高等学校	予選3組 2 分 16 秒 45 組 5位		
少年女子 B	400mメドレーリレー	大分県選抜 選手 池崎美弥(大分市立植田南中学校) 奴留湯さや(大分鶴崎高等学校) 武信ちひろ(中津北高等学校) 安波美鈴(別府市立鶴見台中学校)	予選2組 4 分 30 秒 52 組 6位		

《サッカー》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
少年男子	団体	大分県選抜 監督 首藤謙二(別府羽室台高等学校(教)) 選手 上原成貴(大分南高等学校) 日隈心靖(柳ヶ浦高等学校) 小手川雄紀(大分上野丘高等学校) 広瀬椋平(大分西高等学校) 末永佳希(大分東明高等学校) 戸高航太(情報科学高等学校) 真木晃平(大分東明高等学校) 村井義己(大分東明高等学校) 神田尚輝(大分高等学校) 中島翔太(大分高等学校) 永松凉介(大分高等学校) 山本光彦(大分高等学校) 小原 陸(別府市立浜脇中学校) 高橋優人(大分市立明野中学校) 神田遼太郎(豊後大野市立三重中学校) 吉平 翼(大分東明高等学校)	1回戦 ○ 大分 0 - 0 静岡 ● 〔前半 0 - 0〕 〔後半 0 - 0〕 延長前半 0 - 0 延長後半 0 - 0 PK 5 - 4		
		2回戦 ● 大分 2 - 3 石川 ○ 〔前半 0 - 0〕 〔後半 1 - 1〕 延長前半 1 - 2 延長後半 0 - 0			

《テニス》 競技得点 6.0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 監督 中川 淳(大分市役所) 選手 熊倉周作(明治大学) 村上彰啓(法政大学)	1回戦 ○ 大分 2 - 0 広島 ●		
			2回戦 ● 大分 0 - 2 埼玉 ○		
成年女子	団体	大分県選抜 監督 中川 淳(大分市役所) 選手 円本彩也香(神戸親和女子大学) 鐘江真央(福岡大学)	1回戦 ○ 大分 2 - 1 新潟 ●	8位	3点
			2回戦 ○ 大分 2 - 1 福岡 ●		
			準々決勝 ● 大分 0 - 2 山梨 ○		
			5~8位決定1回戦 ● 大分 0 - 2 神奈川 ○		
			7~8位決定戦 ● 大分 0 - 2 岐阜 ○		
少年男子	団体	大分県選抜 監督 曜日 崇(福德学院高校(教)) 選手 森脇亮太(大分舞鶴高等学校) 古賀大貴(大分舞鶴高等学校)	2回戦 ○ 大分 2 - 1 奈良 ●		
			3回戦 ● 大分 0 - 2 静岡 ○		
少年女子	団体	大分県選抜 監督 曜日 崇(福德学院高校(教)) 選手 伊藤有希(福德学院高等学校) 松尾風香(明豊高等学校)	1回戦 ○ 大分 2 - 1 山梨 ●	8位	3点
			2回戦 ○ 大分 2 - 0 青森 ●		
			3回戦 ○ 大分 2 - 1 広島 ●		
			準々決勝 ● 大分 0 - 2 島根 ○		
			5~8位決定1回戦 ● 大分 0 - 2 兵庫 ○		
			7~8位決定戦 ● 大分 0 - 2 富山 ○		

《ボート》 競技得点 52.0点(17.5点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	ダブルスカル	大分県選抜 佐藤達也(日田玖珠広域消防組合) 林 大輔(日田市役所)	予選A組 3 分 26 秒 18 3 位	6位	3点
			敗者復活戦F組 3 分 18 秒 55 2 位		
	シングルスカル	林 仁哉 日田三隈高等学校(教)	予選B組 3 分 34 秒 84 3 位		
			準決勝B組 3 分 31 秒 80 2 位		
		5~8位決定戦 3 分 45 秒 57 2 着			

《ボート》 競技得点 52.0点(17.5点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年女子	シングルスカル	林 真奈美 びた市ボート部	予選A組 4分05秒26 3位	6位	3点
			準決勝B組 4分46秒34 2位		
			5~8位決定戦 4分08秒13 2着		
少年男子	ダブルスカル	大分県選抜 中原友朗(日田高等学校) 河津蒼摩(日田林工高等学校)	予選B組 3分21秒43 1位	2位	21点
			準決勝B組 3分26秒80 1位		
			決勝 3分24秒11 2着		
少年男子	シングルスカル	梅木 遼太郎 日田高等学校	予選B組 3分48秒05 3位	8位	1点
			準決勝A組 3分41秒39 2位		
			5~8位決定戦 3分48秒83 4着		
少年女子	ダブルスカル	大分県選抜 高野晃帆(日田三隈高等学校) 大門千紗(日田林工高等学校)	予選A組 3分49秒87 1位	1位	24点
			準決勝B組 3分51秒43 1位		
			決勝 3分41秒85 1着		

《ボクシング》 競技得点 8.0点(13.5点)

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	ライトフライ級	荒木 寛人	日本大学	2回戦 ● 荒木 判定負け 山本 ○ 1-2 (京都)		
	ウェルター級	平川 寛之	大分市消防局	1回戦 ● 平川 判定負け 山田 ○ 1-2 (岡山)		
	ライトウェルター級	杉野 守	陸上自衛隊別府駐屯地	1回戦 ● 杉野 判定負け 鐘ヶ江 ○ 1-2 (長崎)		
	ライト級	木本 盛宝	日本大学	1回戦 ○ 木本 判定勝ち 橋垣 ● 3-0 (兵庫)	1位	8点
				2回戦 ○ 木本 3R TKO勝ち 岩丸 ● (群馬)		
準々決勝 ○ 木本 判定勝ち 宇津木 ● 2-1 (埼玉)						
準決勝 ○ 木本 判定勝ち 藤田 ● 2-1 (岡山)						
決勝 ○ 木本 KO 佐川 ● (1回1分18秒) (青森)						
フライ級	廣田 直也	日本大学	1回戦 ● 廣田 判定負け 嶋田 ○ 0-3 (愛媛)			

《バレーボール》 競技得点 7.5点(25.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分三好ヴァイセアドラー 監督 坂口嘉彦 選手 大道大輔・細井規貴・阿部領太・細川優樹 田中拳章・迫谷竜児・山田要平・石垣公也 井口拓也・高橋貴広・橋本大樹・小川貴史	1回戦 ● 大分 1 - 3 千葉 ○ (1セット 18 - 25) (2セット 19 - 25) (3セット 25 - 21) (4セット 23 - 25)		
少年男子	団体	大分県選抜 監督 柿原茂徳(別府鶴見丘高等学校(教)) 選手 後藤翔・後藤空・工藤達也・田中汰河・西知恕 金子俊耶・松川由登・吉田海斗 (別府鶴見丘高等学校) 穂吉祐司・舞裕太・井上弘稀 (大分工業高等学校) 今富大貴(大分南高等学校)	1回戦 ○ 大分 2 - 0 岐阜 ● (1セット 33 - 31) (2セット 25 - 21) 2回戦 ● 大分 0 - 2 大阪 ○ (1セット 18 - 25) (2セット 17 - 25)		
少年女子	団体	東九州龍谷高等学校 監督 相原昇 選手 加藤光 及川真夢 山城愛心 牧野里香 小石照美 堂上智加 野田麻由子 横田実穂 宇都宮光 溝口真夕奈 古寺あかり 田浦優歌	2回戦 ○ 大分 2 - 0 長野 ● (1セット 25 - 23) (2セット 25 - 23) 準々決勝 ● 大分 1 - 2 大阪 ○ (1セット 25 - 22) (2セット 19 - 25) (3セット 28 - 30) 5・7位決定戦 ● 大分 1 - 2 鹿児島 ○ (1セット 23 - 25) (2セット 25 - 12) (3セット 21 - 25)	7位タイ	7.5点

《体操(競技)》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	記録	順位	得点
少年女子	団体	大分県選抜 監督 都甲 純(大分県立病院) 選手 濱村彩来(大分市立南大分中学校) 土屋美咲希(大分市立大東中学校) 矢野朱音(佐伯市立佐伯城南中学校) 藤原咲那(大分西高等学校) 大原菜穂(大分西高等学校)	予選 跳馬 50.450 点 段違い平行棒 38.200 点 平均台 43.000 点 ゆか 47.650 点 合計 179.300 点	29位	

《体操(新体操)》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
少年女子	個人	穴見由香(別府鶴見丘高等学校)	フープ 10.150 点	15位	
		和田晏奈(別府鶴見丘高等学校)	ボール 11.050 点		
		堀 七瀬(別府鶴見丘高等学校)	クラブ 11.850 点		
		日名子 蓮(別府鶴見丘高等学校)	リボン 11.400 点		
	計(4種目4演技×1/4)	11.1125 点			
団体	別府鶴見丘高等学校 監督 平田みほ 選手 穴見由香・和田晏奈・堀 七瀬 日名子 蓮・匹田菜月	団体得点 12.366 点 個人得点 11.1125 点 (団体+個人) 23.4785 点			

《バスケットボール》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績	順位	得点
少年男子	団体	大分県選抜 監督 齋藤哲也(大分舞鶴高等学校(教)) 選手 宮城惇・前川文治・池原海智・坂田雅弥 (柳ヶ浦高等学校) 堀雄士郎・森本勲太・香川泰斗・スミス安努隆 (大分舞鶴高等学校) 節川翼(大分上野丘高等学校) 森山翔太(日田高等学校) フェイスダリー(明豊高等学校)	2回戦 ● 大分 73 - 95 広島 ○ (1Q 15 - 25) (2Q 10 - 24) (3Q 22 - 17) (4Q 26 - 29)		

《レスリング》

競技得点 12.0点(10.5点)

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	フリースタイル (57kg級)	若林 健太	サントリービバレッジ㈱	1回戦 ● 若林 フォール負け 山崎 ○ (3分59秒) (東京)		
	フリースタイル (61kg級)	磯 祐樹	日本文理大学	2回戦 ● 磯 Tフォール負け 阿部 ○ (50秒) (茨城)		
	フリースタイル (86kg級)	亀井 謙吾	フドーキン醤油㈱	1回戦 ○ 亀井 Tフォール勝ち 樋口 ● (2分1秒) (栃木)		
				2回戦 ● 亀井 Tフォール負け 岡嶋 ○ (4分17秒) (滋賀)		
	フリースタイル (97kg級)	坂本 憲蔵	陸上自衛隊別府駐屯地	2回戦 ○ 坂本 Tフォール勝ち 茄子野 ● (5分17秒) (石川)	1位タイ	4.5点
	グレコローマンスタイル (71kg級)	盛根 聖太	日本文理大学	2回戦 ○ 盛根 判定勝ち 宮崎 ● (2-0) (佐賀)	5位タイ	2.5点
				準々決勝 ● 盛根 Tフォール負け 屋比久 ○ (1分55秒) (沖縄)		
グレコローマンスタイル (75kg級)	亀井 竜昇	自衛隊体育学校	2回戦 ○ 亀井 判定勝ち 永井 ● (10-9) (香川)	5位タイ	2.5点	
			準々決勝 ● 亀井 判定負け 倉谷 ● (0-4) (山梨)			
少年男子	フリースタイル (84kg級)	鳥井 皓介	日本文理大学附属高等学校	1回戦 ● 鳥井 Tフォール負け 錦戸 ○ (2分24秒) (熊本)		
	フリースタイル (96kg級)	渡辺 大智	日本文理大学附属高等学校	1回戦 ● 渡辺 フォール負け 坂田 ○ (1分46秒) (埼玉)		
	フリースタイル (120kg級)	魚見 友浩	日本文理大学附属高等学校	1回戦 ○ 魚見 Tフォール勝ち 相原 ● (52秒) (山形)	5位タイ	2.5点
				準々決勝 ● 魚見 フォール負け 山本 ○ (22秒) (静岡)		
	グレコローマンスタイル (55kg級)	山際 樹	日本文理大学附属高等学校	1回戦 ● 山際 判定負け 齊藤 ○ (7-8) (秋田)		
	グレコローマンスタイル (60kg級)	市原 元紀	日本文理大学附属高等学校	1回戦 ○ 市原 フォール勝ち 喜多 ● (4分46秒) (石川)		
				2回戦 ● 市原 Tフォール負け 荒井 ○ (2分12秒) (山形)		
グレコローマンスタイル (66kg級)	兒嶋 賢介	日本文理大学附属高等学校	1回戦 ● 兒嶋 判定負け 濱本 ○ (7-12) (鳥取)			
グレコローマンスタイル (74kg級)	伊東 慧	日本文理大学附属高等学校	2回戦 ● 伊東 フォール負け 伊藤 ○ (2分19秒) (京都)			

※フリースタイル成年男子は台風の影響による日程変更で2回戦終了をもって全日程終了。上位8名を1位タイとする。

《セーリング》 競技得点 39.0点(41.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	470級	大分県選抜 奈良大樹(同志社大学) 甲斐晋平(関西学院大学)	最終成績 80点	22位	
	国体シングルハンダー級	丸子 喬央 大分県警察本部	最終成績 62点	19位	
	国体ウインドサーフィン級	黒石 勇次 北村築郵便局	最終成績 23点	5位	4点
成年女子	セーリングスピリッツ級	大分県選抜 後藤沙季(大分県教育庁) 後藤沙織(明治安田生命保険相互会社)	最終成績 14点	3位	18点
	シーホッパー級スモールリグ	平原 みちる 中央大学	最終成績 58点	17位	
	国体ウインドサーフィン級	山口 しぶき 大分大学	最終成績 85点	21位	
少年男子	セーリングスピリッツ級	大分県選抜 矢野航志(別府青山高等学校) 大野将寿(別府青山高等学校)	最終成績 21点	5位	12点
	シーホッパー級スモールリグ	坪根 遼翼 中津南高等学校	最終成績 50点	14位	
少年女子	セーリングスピリッツ級	大分県選抜 足立茉莉花(別府青山高等学校) 小松日向(別府青山高等学校)	最終成績 45点	14位	
	シーホッパー級スモールリグ	赤嶺 華歩 別府青山高等学校	最終成績 18点	4位	5点

《ウエイトリフティング》 競技得点 46.0点(31.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	56kg級	古庄 佑基 大分県警察	スナッチ 記録なし kg		
			クリーン&ジャーク 121 kg	6位	3点
			トータル 順位・記録なし kg		
	85kg級	児玉 友稀 日本体育大学	スナッチ 126 kg	6位	3点
			クリーン&ジャーク 148 kg	15位	
			トータル 274 kg	12位	
	94kg級	衛藤 靖弘 大分県ウエイトリフティング協会	スナッチ 137 kg	7位	2点
			クリーン&ジャーク 161 kg	12位	
			トータル 298 kg	9位	
	105kg級	赤松 哲郎 法政大学	スナッチ 140 kg	5位	4点
			クリーン&ジャーク 165 kg	10位	
			トータル 305 kg	7位	
少年男子	53kg級	砂山 昂大 宇佐高等学校	スナッチ 82 kg	4位	5点
			クリーン&ジャーク 102 kg	4位	5点
			トータル 184 kg	4位	
	62kg級	佐藤 右規 宇佐高等学校	スナッチ 96 kg	6位	3点
			クリーン&ジャーク 118 kg	4位	5点
			トータル 214 kg	5位	
	+105kg級	野中 雅浩 大分工業高等学校	スナッチ 136 kg	1位	8点
			クリーン&ジャーク 180 kg	1位	8点
			トータル 316 kg	1位	

《自転車》 競技得点 36.0点(29.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
男子	チーム・スプリント	大分県選抜 黒枝咲哉(鹿屋体育大学) 加藤 樹(日本体育大学) 佐藤文俊(日出総合高等学校)	決勝 1分19秒569	14位	
	4km団体追抜競走	大分県選抜 一丸尚伍(法政大学) 阿部将大・高橋優斗・高橋綜一郎 (日出陽谷・総合高等学校)	決勝 4分26秒667	6位	9点

《自転車》 競技得点 36.0点(29.0点)

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点	
成年男子	スプリント	宮成 國仁	大分市消防局	予選 11 秒 681	17位		
	ケイリン	黒枝 士揮	VINI FANTINI NIPPO DEROSA	予選1回戦 1組	組5位		
	4km速度競走	黒枝 咲哉	鹿屋体育大学	予選3組	組2位	4位	5点
				決勝 ※タイム計測は1位のみ			
	ポイントレース(10km)	加藤 樹	日本体育大学	予選1組 得点 1	組12位		
1kmタイムトライアル	一丸 尚伍	法政大学	決勝 1 分 06 秒 902		6位	3点	
少年男子	ケイリン	阿部 将大	日出暘谷・日出総合高等学校	予選1回戦 5組 11 秒 651	組1位	1位	8点
				準決勝 1組	組2位		
				決勝 記録 11 秒 431			
	4km速度競走	高橋 綜一郎	日出暘谷・日出総合高等学校	予選5組 5 分 20 秒 437	組1位	7位	2点
				決勝 ※タイム計測は1位のみ			
ポイントレース (16km) ※予選は10km	高橋 優斗	日出暘谷・日出総合高等学校	予選1組 得点 5 点	組5位	2位	7点	
			決勝 得点 13 点				
1kmタイムトライアル	佐藤 文俊	日出暘谷・日出総合高等学校	決勝 1 分 09 秒 452		7位	2点	

《ソフトテニス》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
少年女子	団体	大分県選抜 監督 吉良洋介(明豊中学・高等学校(教)) 選手 真島史歩・須々田優希・山宮紗奈・小玉朱理(明豊高等学校) 川野美咲・姫島有貴(大分商業高等学校)	1回戦 ○ 大分 3 - 0 静岡 ● 2回戦 ● 大分 0 - 3 東京 ○		

《卓球》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 監督 林 哲也(新日鐵住金(株)大分製鐵所) 選手 江藤慧(近畿大学) 西村馨史(日本大学) 花木誠弥(埼玉工業大学)	1次リーグ ● 大分 0 - 3 埼玉 ○ ● 大分 1 - 3 愛媛 ○ ● 大分 0 - 3 愛知 ○ 0 勝 3 敗 4位		
成年女子	団体	大分県選抜 監督 中村和好(大分県卓球連盟) 選手 松本優希(ミキハウス) 藤原佳代(S☆girl) 辻原麻希(近畿大学)	1次リーグ ○ 大分 3 - 2 秋田 ● ● 大分 1 - 3 新潟 ○ ● 大分 0 - 3 広島 ○ 1 勝 2 敗 3位		
少年男子	団体	大分県選抜 監督 藤本賢司(明豊中学・高等学校(教)) 選手 高橋拓己(明豊高等学校) 渡辺聡太(明豊高等学校) 矢野雅大(明豊高等学校)	1次リーグ ○ 大分 3 - 1 京都 ● ● 大分 2 - 3 石川 ○ ○ 大分 3 - 0 埼玉 ● ● 大分 1 - 3 愛知 ○ 2 勝 2 敗 3位		
少年女子	団体	大分県選抜 監督 松本香織(明豊中学・高等学校(教)) 選手 周 小琛(別府溝部学園高等学校) 近藤未来(明豊高等学校) 木原小絵香(明豊高等学校)	トーナメント2回戦 ○ 大分 3 - 1 和歌山 ● トーナメント3回戦 ● 大分 0 - 3 岐阜 ○		

《軟式野球》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 監督兼選手 菅原大樹(JA全農おおいた) 選手 竹本祐太郎・須川陽介・武田靖弘・羽木陽輔(大分銀行) 後藤誠司・藤川祐樹・森本翔(博愛病院) 松延孝典・西田剛・藤原愛一郎(JA全農おおいた) 鶴田健悟・脇和也(別府市役所) 橋本祐一(仲宗根病院) 江藤大樹(鶴崎海陸運輸) 柁祐樹(大分県信用農業共同組合連合会)	1回戦 ● 大分 1 - 2 和歌山 ○ (延長10回)		

《相撲》 競技得点 0点(18.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 監督 梶川清明(宇佐高等学校(教)) 選手 山下勝博(近畿大学九州短期大学(職)) 中村直樹(宇佐市立駅川中学校(教)) 佐藤友昭(佐伯市役所)	予選1回戦 ○ 大分 2 - 1 新潟 ●		
			予選2回戦 ○ 大分 2 - 1 奈良 ●		
			予選3回戦 ● 大分 1 - 2 岩手 ○		
少年男子	団体	大分県選抜 監督 重倉誉宣(楊志館高等学校(教)) 選手 吉田裕貴(楊志館高等学校) 河野龍一郎(中津東高等学校) 森永健太(中津東高等学校) 間地良太(楊志館高等学校) 佐藤太一(楊志館高等学校)	予選1回戦 ● 大分 2 - 3 長野 ○		
			予選2回戦 ○ 大分 5 - 0 広島 ●		
			予選3回戦 ○ 大分 5 - 0 宮崎 ●		
			決勝トーナメント1回戦 ● 大分 2 - 3 和歌山 ○		
	個人	吉田 裕貴 楊志館高校	決勝トーナメント1回戦 ● 吉田 よりきり 金森(静岡) ○		
			間地 良太 楊志館高校		
			決勝トーナメント2回戦 ● 間地 つきたおし 山獄(熊本) ○		

《馬術》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年女子	馬場馬術	波津久 華奈 九州看護福祉大学	得点率 56.078 点	10位	
	ダービー	工藤 幸子 介護老人保健施設 陽光苑	失権		
少年	トップスコア	神田 裕太郎 大分市立大東中学校	失権(落馬)		

《フェンシング》 競技得点 78.0点(21.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	フルーレ	大分県選抜 監督兼選手 村上仁紀(別府鶴見丘高校(教)) 選手 木辺啓二(壘学校(職)) 大石利樹(法政大学)	1回戦(リーグ戦) ○ 大分 3 - 0 新潟 ● ○ 大分 2 - 1 神奈川 ● リーグ成績 2 勝 0 敗 1 位	1位	24点
			2回戦(リーグ戦) ○ 大分 2 - 1 愛知 ● ○ 大分 2 - 1 三重 ● リーグ成績 2 勝 0 敗 1 位		
			3回戦 ○ 大分 2 - 0 三重 ●		
			準々決勝 ○ 大分 2 - 0 宮城 ●		
			準決勝 ○ 大分 2 - 0 京都 ●		
			決勝 ○ 大分 2 - 0 神奈川 ●		
			1回戦(リーグ戦) ● 大分 1 - 2 長野 ○ ● 大分 0 - 3 島根 ○ リーグ成績 0 勝 2 敗 3 位		
	フルーレ				

《フェンシング》 競技得点 78.0点(21.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年女子	フルール	大分県選抜 監督兼選手 松木 瞳 (ジェネシスヘルスケア(株))	1回戦(リーグ戦) ○ 大分 3 - 0 岡山 ● ○ 大分 3 - 0 北海道 ● リーグ成績 2 勝 0 敗 1 位 2回戦(リーグ戦) ● 大分 1 - 2 長崎 ○ ○ 大分 2 - 1 群馬 ● リーグ成績 1 勝 1 敗 2 位 準々決勝 ○ 大分 2 - 0 北海道 ● 準決勝 ● 大分 1 - 2 秋田 ○ 3位決定戦 ○ 大分 2 - 1 富山 ●	3位	18点
	エペ	選手 大石 菜菜(法政大学) 横井 七恵(日本大学)	1回戦(リーグ戦) ○ 大分 3 - 0 京都 ● ○ 大分 2 - 1 岡山 ● リーグ成績 2 勝 0 敗 1 位 2回戦(リーグ戦) ● 大分 1 - 2 富山 ○ ○ 大分 3 - 0 鹿児島 ● リーグ成績 1 勝 1 敗 1 位 準々決勝 ○ 大分 2 - 0 山口 ● 準決勝 ○ 大分 2 - 0 群馬 ● 決勝 ○ 大分 2 - 1 長崎 ●	1位	24点
少年男子	フルール	大分県選抜 監督 上野正昭(情報科学高等学校(教)) 選手 上野 優斗(別府市立山の手中学校) 石井 魁(玖珠町立北山田中学校) 荒金 泰成(別府市立朝日中学校)	1回戦(リーグ戦) ○ 大分 2 - 1 福島 ● ○ 大分 2 - 1 京都 ● リーグ成績 2 勝 0 敗 1 位 2回戦(リーグ戦) ○ 大分 3 - 0 福岡 ● ● 大分 1 - 2 岐阜 ○ リーグ成績 1 勝 1 敗 2 位 準々決勝 ● 大分 1 - 2 愛知 ○ 5~8位決定戦 ○ 大分 2 - 1 長野 ● 5・6位決定戦 ○ 大分 2 - 1 岐阜 ●	5位	12点

《柔道》 競技得点 0点(12.5点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 監督 板井 慎吾(大分県警察) 選手 尾園 芳樹(大分県警察機動隊) 飯倉 仁(大分県警察機動隊) 下村 希佑(大分県警察機動隊) 赤迫 健太(新日鐵住金(株)広畑製鐵所) 中島 勇貴(日本体育大学)	2回戦 ○ 大分 2 - 2 千葉 ● (代表勝ち) 3回戦 ● 大分 1 - 1 石川 ○ (内容負け)		

《ソフトボール》 競技得点 40.0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 監督 鍵矢 栄典(大分県南経常建設共同企業体) 選手 井原 慶三(日鐵住金テクノロジー(株)) 今川 怜(鶴崎海陸運輸(株)) 岩田 照久(新日鐵住金(株)大分製鐵所) 大野 孝明(日鐵住金テクノロジー(株)) 興田 賢一(日鐵住金テクノロジー(株)) 五島 和也(株)朝日木工) 中村 友亮(大分大学) 東 健吾(日鐵住金テクノロジー(株)) 村上 大作(日鐵住金テクノロジー(株)) 椿 功一郎(中央発条工業(株)) 姫野 泰裕(新日鐵住金(株)大分製鐵所) 山下 治(中京学院大学)	1回戦 ○ 大分 4 - 0 山形 ● 準々決勝 ● 大分 0 - 1 栃木 ○	5位タイ	20点

《ソフトボール》 競技得点 40.0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年女子	団体	大分県選抜 監督 宝珠山豊彦(大分南高等学校(教)) 選手 田城博美(福岡県) 河津かおり(東海理化) 松尾結衣(九州共立大学) 羽木由衣子((有)ワンエス) 吉野 優(国士舘大学) 廣瀬まい(日本文理大学) 百瀬 篠(日本文理大学) 小西このみ(大分市立別保小学校(教)) 小川楓花(社会医療法人小寺会佐伯中央病院) 赤峰美奈(総合ケアセンター清流苑) 隅田朋子(佐川急便) 三明亜裕美(介護老人保健施設つくみかん) 甲斐はづき(日本文理大学)	準々決勝 ● 大分 1 - 5 兵庫 ○	5位タイ	20点

《バドミントン》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 監督 小俣 功(由布市役所) 選手 左村正和(日田市役所) 松田卓也(日田市役所) 井上大輔(別府市消防本部)	1回戦 ● 大分 0 - 2 静岡 ○		
少年女子	団体	大分県選抜(大分西高等学校) 監督 升巴勇希 選手 柿本由乃・結城晶子・小林瑞希	1回戦 ● 大分 0 - 2 福島 ○		

《弓道》 競技得点 3.0点(51.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	遠的	大分県選抜 監督兼選手 石川 嵩(明豊中学・高等学校(教)) 選手 竹尾圭祐(佐伯市役所) 首藤浩太郎(日鐵住金テックスエンジ㈱大分支店)	予選(12射) 竹尾 21 点 首藤 20 点 石川 30 点 トータル得点 71 点 10 位		
	近的		予選(24射) 石川 6 中 竹尾 6 中 首藤 6 中 トータル得点 18 中 14 位タイ		
成年女子	遠的	大分県選抜 監督兼選手 吉武美智代((株)白石総合コンサルタント) 選手 石井加奈子(大分バス(株)) 濱田昌子(日田高等学校(教))	予選(12射) 石井 25 点 濱田 29 点 吉武 3 点 トータル得点 57 点 8 位	8位	3点
			決勝トーナメント1回戦(12射) ● 大分 16 - 49 東京 ○ 石井 8 点 濱田 5 点 吉武 3 点 トータル得点 16 点		
			5位~8位順位決定戦(6射) 大分 石井 5 点 濱田 0 点 吉武 0 点 トータル得点 5 点		
			予選(24射) 吉武 6 中 石井 6 中 濱田 4 中 トータル得点 16 中 9 位タイ		
成年女子	近的				

《ライフル射撃》 競技得点 15.0点(18.0点)

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点	
成年男子	10mS60M	近藤 桂司	日本文理大学	予選 得点 608. 点 12位	14位		
	10mP60M			決勝 得点 622. 点			
	50mK20M	磯部 直樹	大分市役所	決勝 得点 179. 点	20位		
	50mP60M			予選 得点 605. 点 21位			
	CP30M			決勝 得点 274. 点	33位		
	成年女子	CP60M	伊藤 慎一郎	大分県警察本部	予選	8位	1点
					精密射撃(30発)得点 273. 点		
速射(30発)得点 291. 点							
合計得点 564. 点 17位							
10mAP40W	久保 美紀	日田支援学校(教)	予選 得点 347. 点 16位	8位	1点		
50m3x20W	森 瑞希	同志社大学	予選 得点 566. 点 6位 決勝 得点 384. 点				
50mP60W	磯部 あずさ	キヤノンシステムアンドサポート(株)	決勝 得点 609. 点	8位	1点		
10mS40W			予選 得点 398. 点 30位				
10mP40W	決勝 得点 416. 点	13位					
少年男子	BRS30JM	秀平 拓海	由布高等学校	決勝 得点 307. 点	14位		
	BRS60JM			予選 得点 610. 点 17位			
	BP40JM	工藤 湧士	由布高等学校	予選 得点 369. 点 2位 決勝 得点 189. 点	2位	7点	
	10mS60JM	八川 綾佑	由布高等学校	予選 得点 617. 点 1位 決勝 得点 179. 点	3位	6点	
少年女子	10mS40JW	高橋 笑	由布高等学校	予選 得点 394. 点 22位			
	BRS40JW	幸野 真唯	由布高等学校	予選 得点 414. 点 11位	11位		
	BRS20JW			決勝 得点 207. 点			
	BP40JW	山田 愛	由布高等学校	予選 得点 341. 点 12位			

《剣道》 競技得点 25.0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 監督兼選手 阿部昭一(大分県剣道連盟) 選手 三宮裕馬(大分県警察本部) 竹下洋平(大分県警察本部) 宇都宮徹(大分県警察本部) 堀 郁郎(杵築高等学校(教))	2回戦 ● 大分 2 - 3 山形 ○		
少年男子	団体	大分県選抜 監督 堀秀一郎(日田高等学校(教)) 選手 板井滉貴(大分舞鶴高等学校) 高山泰佳(杵築高等学校) 河内隼斗(杵築高等学校) 中根成耶(杵築高等学校) 黒木 誠(大分舞鶴高等学校)	1回戦 ○ 大分 3 - 2 福島 ●	4位	25点
			準々決勝 ○ 大分 3 - 2 岐阜 ●		
			準決勝 ● 大分 1 - 3 福岡 ○		
			3位決定戦 ● 大分 1 - 4 熊本 ○		

《山岳》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	ボルダリング	大分県選抜 監督 清水 哲(大分キャンノン(株)) 選手	予選 15 位		
	リード	一宮大介(大阪産業大学) 島田蒼也(山口大学)	予選 11 位		
成年女子	ボルダリング	大分県選抜 監督 後藤信子(大分県山岳連盟) 選手	予選 16 位		
	リード	山本樹理(大分県山岳連盟) 志賀愛(和風アニメーション)	予選 12 位		

《カヌー(スラローム・ワイルドウォーター)》 競技得点 4.0点(3.5点)

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	ワイルドウォーターK-1(1500m)	川野 祥吾	大分赤十字病院	決勝 5分05秒81	14位	
	ワイルドウォーターK-1(スプリント)			決勝 1分39秒67	17位	
	スラロームK-1(25ゲート)	河津 聖駒	大分県カヌー協会	決勝 113.94点	16位	
	スラロームK-1(15ゲート)			決勝 112.33点	18位	
成年女子	ワイルドウォーターK-1(1500m)	佐竹 恵	大分県カヌー協会	決勝 5分24秒04	7位	2点
	ワイルドウォーターK-1(スプリント)			決勝 1分45秒57	7位	2点

《カヌー(スプリント)》 競技得点 8.0点(66.0点)

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	スプリントC-1(500m)	長井 海斗	(株)ハイデイ日高	予選1組 2分13秒355 組3位	4位	5点
				準決勝1組 2分3秒004 組1位		
				決勝 2分6秒309		
成年男子	スプリントC-1(200m)			予選2組 43秒740 組2位	6位	3点
				準決勝2組 43秒465 組1位		
				決勝 44秒484		
少年男子	スプリントJC-1(500m)	佐藤 洸誠	楊志館高等学校	予選1組 2分21秒503 組3位		
少年男子	スプリントJC-1(200m)			準決勝1組 2分18秒922 組5位		
				予選2組 49秒152 組7位		
				準決勝2組 48秒906 組6位		

《アーチェリー》 競技得点 18.0点(36.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 監督 吉富康秋(大分県アーチェリー協会) 選手 大野佑貴(由布市役所) 天野良太(三起商工株式会社(ミキハウス)) 金子 令(三重県朝日町立朝日小学校(教))	予選ラウンド 大野 620点 天野 608点 金子 637点 合計 1865点 5位	3位	18点
			決勝ラウンド準々決勝 ○ 大分 5 - 3 大阪 ●		
			決勝ラウンド準決勝 ● 大分 3 - 5 神奈川 ○		
			3位決定戦 ○ 大分 5 - 4 広島 ●		

《空手道》 競技得点 8.5点(7.5点)

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	組手級 (軽量級)	大嶋 健太	関西学院大学	1回戦 ● 大嶋 0 - 2 鹿谷 ○ (香川)	3位	6点
				1回戦 ○ 藤澤 2 - 0 山浦 ● (長野)		
	2回戦 ○ 藤澤 8 - 0 黒川 ● (熊本)					
	3回戦 ○ 藤澤 2 - 2 斉藤 ● (判定4-1) (埼玉)					
	4回戦 ○ 藤澤 6 - 3 児玉 ● (宮城)					
	準決勝 ● 藤澤 0 - 1 宮川 ○ (長崎)					
	3位決定戦 ○ 藤澤 7 - 1 有貞 ● (広島)					
組手級 (中量級)	藤澤 貴樹	京都産業大学				

《空手道》 競技得点 8.5点(7.5点)

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	組手 (重量級)	藤澤 武之	柳ヶ浦高等学校(教)	2回戦 ○ 藤澤 2 - 0 中田 ● (高知)		
				3回戦 ● 藤澤 0 - 8 溝口 ○ (大阪)		
	形	宮崎 健太	日鐵住金物産(株)	1回戦 ● 宮崎 0 - 5 在本 ○ (岡山)		
成年女子	組手	大野 ひかる	同志社大学	2回戦 ○ 大野 3 - 0 鎌田 ● (香川)	5位タイ	2.5点
				3回戦 ○ 大野 7 - 0 岡本 ● (徳島)		
	形	大野 ひかる	同志社大学	4回戦 ● 大野 1 - 2 門屋 ○ (山梨)		
少年男子	形	村井 優太	柳ヶ浦高等学校	1回戦 ○ 大野 5 - 0 紺屋 ● (愛媛)		
				2回戦 ● 大野 0 - 5 清水 ○ (大阪)		
	組手	白石 智哉	柳ヶ浦高等学校	1回戦 ○ 村井 3 - 2 木幡 ● (宮城)		
	組手	白石 智哉	柳ヶ浦高等学校	2回戦 ● 村井 0 - 5 井上 ○ (高知)		
	組手	白石 智哉	柳ヶ浦高等学校	2回戦 ○ 白石 3 - 3 荒井 ● (石川) 判定5-0		
	組手	白石 智哉	柳ヶ浦高等学校	3回戦 ● 白石 2 - 3 櫻井 ○ (愛知)		
少年女子	形	尾関 栄麻奈	大分南高等学校	1回戦 ● 尾関 1 - 4 石原 ○ (長野)		
	組手	平野 伊吹	大分南高等学校	1回戦 ● 平野 - 藤田 ○ 棄権 (神奈川)		
全種別	組手団体	大分県選抜 監督 伊藤健一(大分南高等学校(教)) 選手 白石智哉(柳ヶ浦高等学校) 尾関栄麻奈(大分南高等学校) 藤澤貴樹(京都産業大学) 藤澤武之(柳ヶ浦高等学校(教)) 大嶋健太(関西学院大学)		2回戦 ● 大分 1 - 2 新潟 ○		

《銃剣道》 競技得点 21.0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	大分県選抜 (陸上自衛隊別府駐屯地) 監督兼選手 西村健一 選手 西村 健 小田昌樹	1回戦 ○ 大分 3 - 0 山口 ●	2位	21点
			2回戦 ○ 大分 3 - 0 福島 ●		
			3回戦 ○ 大分 2 - 1 静岡 ●		
			準々決勝 ○ 大分 2 - 1 石川 ●		
			準決勝 ○ 大分 2 - 1 佐賀 ●		
			決勝 ● 大分 0 - 3 長崎 ○		

《クレール射撃》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	記録						順位	得点
			1R	2R	3R	4R	合計	順位		
成年	スキート	大分県選抜 監督兼選手 長岡隆秀((有)ひばり産業) 選手 和田誠治((有)明成工業) 長野 剛(剛成建築)							13位	
			長岡	23	20	21	19	83		
			和田	17	20	20	23	80	47位	
			長野	19	17	20	23	79	52位	
			合計				242			
成年	トラップ	大分県選抜 選手 穴井美香(大分県クレール射撃協会) 森田幹男(森田シール) 八木和人(リリーフ・ライフ(株))							23位	
			穴井	19	17	15	13	64		
			森田	18	21	17	20	76	50位	
			八木	23	17	21	21	82	24位	
			合計				222			

《なぎなた》 競技得点 12.0点(21点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点
成年女子	演技	大分県選抜 監督 小野博美(大分西高等学校(教)) 選手 板井奈津美(大分キャノンマテリアル(株)) 中洲夏海(日出町役場)	1回戦 ○ 大分 5 - 0 愛知 ● 2回戦 ○ 大分 4 - 1 東京 ● 3回戦 ● 大分 1 - 4 福岡 ○		
	試合	大分県選抜 監督 小野博美(大分西高等学校(教)) 選手 中洲夏海(日出町役場) 築城理恵(福德学院高校(教)) 板井奈津美(大分キャノンマテリアル(株))	1回戦 ● 大分 1 - 2 和歌山 ○		
少年女子	演技	大分県選抜 監督 小野博美(大分西高等学校(教)) 選手 川野袖奈(大分西高校) 園田茉央(福德学院高校)	1回戦 ○ 大分 4 - 1 埼玉 ● 2回戦 ○ 大分 5 - 0 茨城 ● 3回戦 ● 大分 1 - 4 奈良 ○		
	試合	大分県選抜 監督 小野博美(大分西高等学校(教)) 選手 先鋒 園田茉央(福德学院高等学校) 中堅 川野袖奈(大分西高等学校) 大将 河野志保(大分西高等学校)	1回戦 ○ 大分 2 - 1 京都 ● 2回戦 ○ 大分 3 - 0 熊本 ● 準々決勝 ● 大分 1 - 2 山形 ○ 5位決定戦1回戦 ○ 大分 3 - 0 和歌山 ● 5位決定戦 ○ 大分 2 - 1 沖縄 ●	5位	12点

《ボウリング》 競技得点 24.0点(1.0点)

種別	種目	団体名・選手名・所属	成績・記録	順位	得点	
成年男子	個人戦	緒方 正 大分商業高等学校(教)	予選 前半 571 点 後半 601 点 予選合計 1172 点	84位		
		大秋 稜 NPO法人「もあ・かけはし」通所工房I-TEM	予選 1394 点 決勝 689 点 合計 2083 点	3位	6点	
		安藤 覚 大分県庁	予選 前半 579 点 後半 544 点 予選合計 1123 点	101位		
		安藤 英司 榊西野物産	予選 前半 642 点 後半 583 点 予選合計 1225 点	50位		
	団体(2人チーム)	大分県選抜	緒方 正(大分商業高等学校(教))	予選 前半 1340 点 後半 1304 点 予選合計 2644 点	3位	18点
			大秋 稜(NPO法人「もあ・かけはし」通所工房I-TEM)	決勝戦 1328 点 合計(予選+決勝) 3972 点		
		大分県選抜	安藤 覚(大分県庁)	予選 前半 1279 点 後半 1127 点 予選合計 2406 点	36位	
			安藤英司(榊西野物産)			
	団体(4人チーム)	大分県選抜	緒方 正(大分商業高等学校(教))	予選 671 点 合計	21位	
			大秋 稜(NPO法人「もあ・かけはし」通所工房I-TEM)	593 点		
安藤 覚(大分県庁)			642 点			
安藤英司(榊西野物産)			622 点			

《ゴルフ》 競技得点 0点(0点)

種別	種目	選手名	所属	成績・記録	順位	得点
成年男子	団体	渡辺 卓	瀬渡し有漁丸	アウト 40 イン 39 合計 79 95 位タイ	35位タイ	
		西村 晋太郎	大分東急ゴルフクラブ	アウト 41 イン 38 合計 79 95 位タイ		
		板井 良春	JX日鉱日石エネルギー(株)大分製油所	アウト 36 イン 42 合計 78 81 位タイ		
		合計スコア 236 チーム順位 35 位タイ				
女子	団体	但馬 友	大分高等学校	アウト 39 イン 38 合計 77 54 位タイ	27位	
		姜 智賢	大分高等学校	アウト 40 イン 37 合計 77 54 位タイ		
		淵野 ひかる	大分高等学校	アウト 39 イン 41 合計 80 85 位タイ		
		合計スコア 234 チーム順位 27 位				

【公開競技】

《トライアスロン》

種別	種目	選手名	所属	記録	順位	備考
成年男子	個人	秦 陽一郎	(株)東芝セミコンダクター &ストレージ社	スイム 6 分 45 秒 バイク 実施せず 分 秒 ラン 19 分 3 秒 合計タイム 時間 25 分 48 秒	30位	公開競技
成年女子	個人	藤野 寿代	(株)東芝セミコンダクター &ストレージ社	スイム 7 分 54 秒 バイク 実施せず 分 秒 ラン 21 分 56 秒 合計タイム 時間 29 分 50 秒	20位	

